

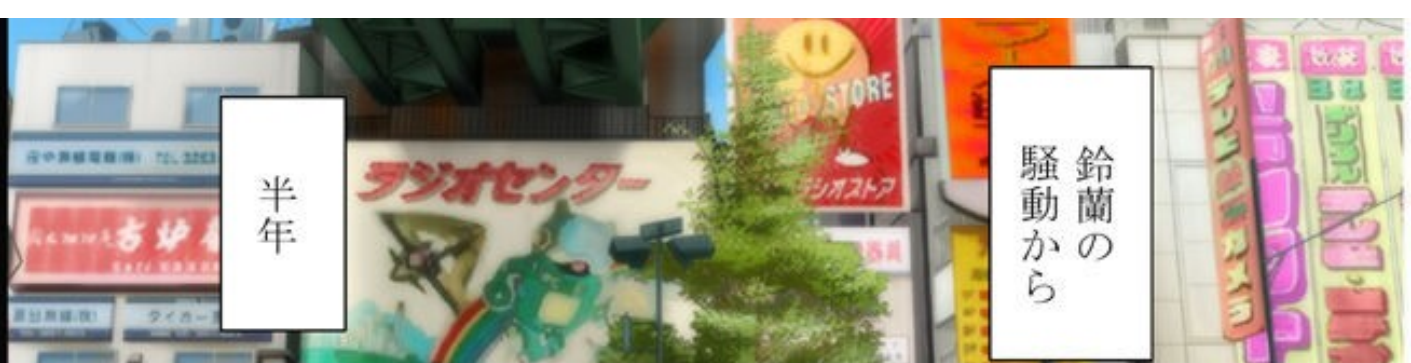
敏感アイドルと快感ゴースト

後編

敏感アイドルと
快感ゴースト

後編





半年

鈴蘭の
騒動から



何事もなかったかの
ように

私は
すっかり

元の
アイドルとしての生活に
戻っていた



はうい
ありがとう
ございます



あ…
あの…

頑張ってください
……



鈴蘭にとりつかれた
経験からか
前よりもセクシーに
なったって
みんなに言われるし

あれからとくに
変わったこともなく

むしろ
芸能活動は順調で



以前 暴走した
プロデューサーさんは
私に申し訳なく
思っているのか



でも

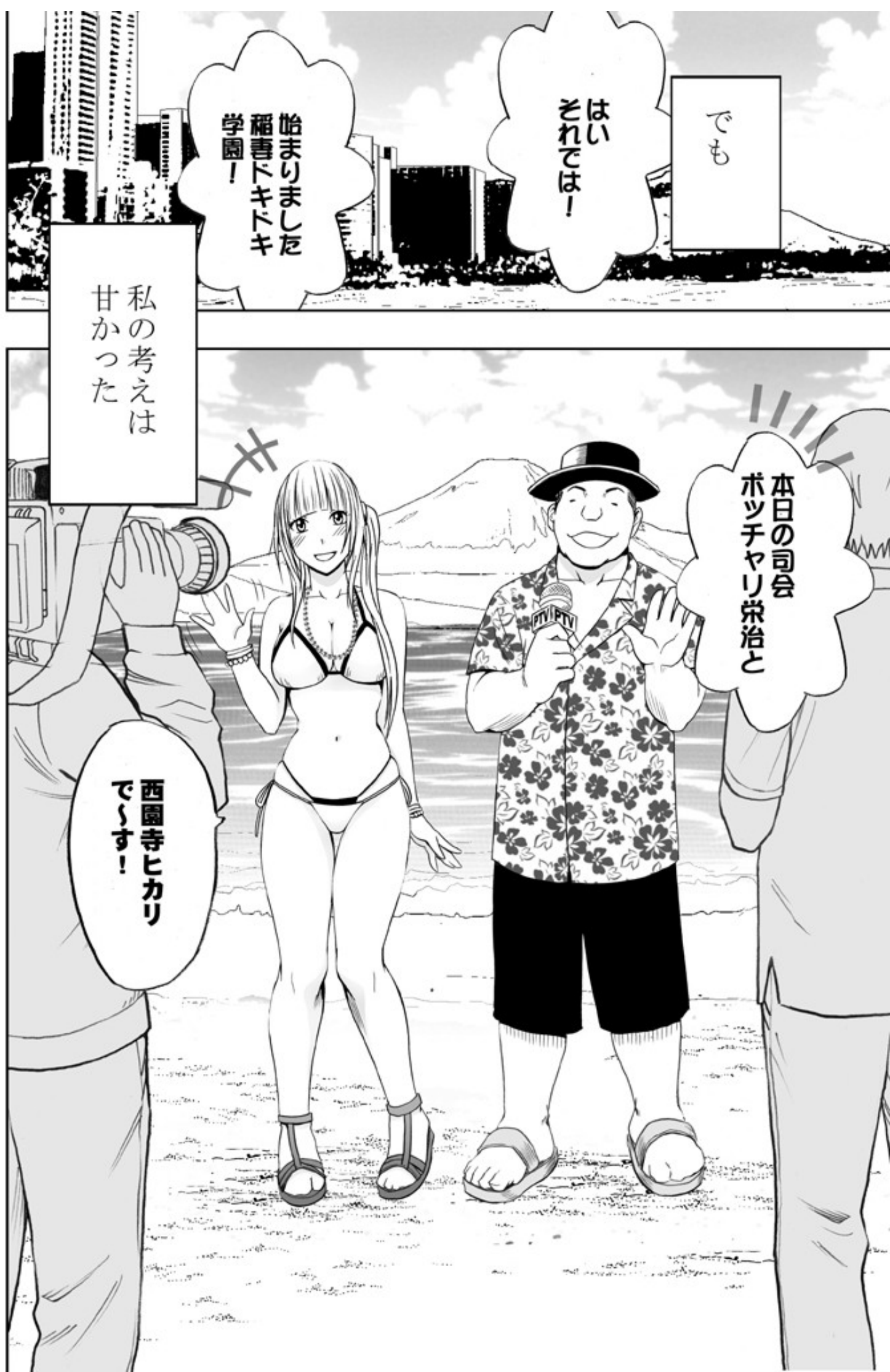
はい
それでは！

始まりました
稲妻ドキドキ
学園！

私の考えは
甘かった

本日の司会
ポッチヤリ栄治と

西園寺ヒカリ
です！





現世に
未練を持ち
さまよう怨霊

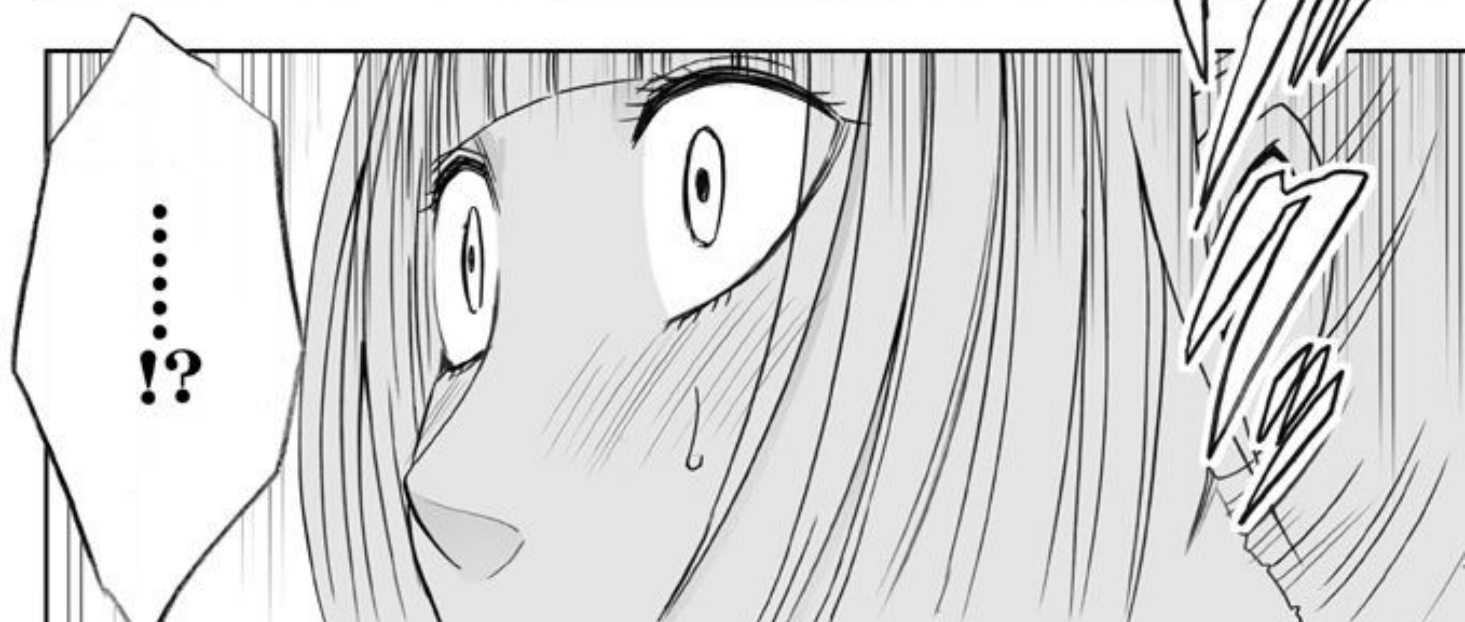
その活動の
糧となるのは
人間の強い感情

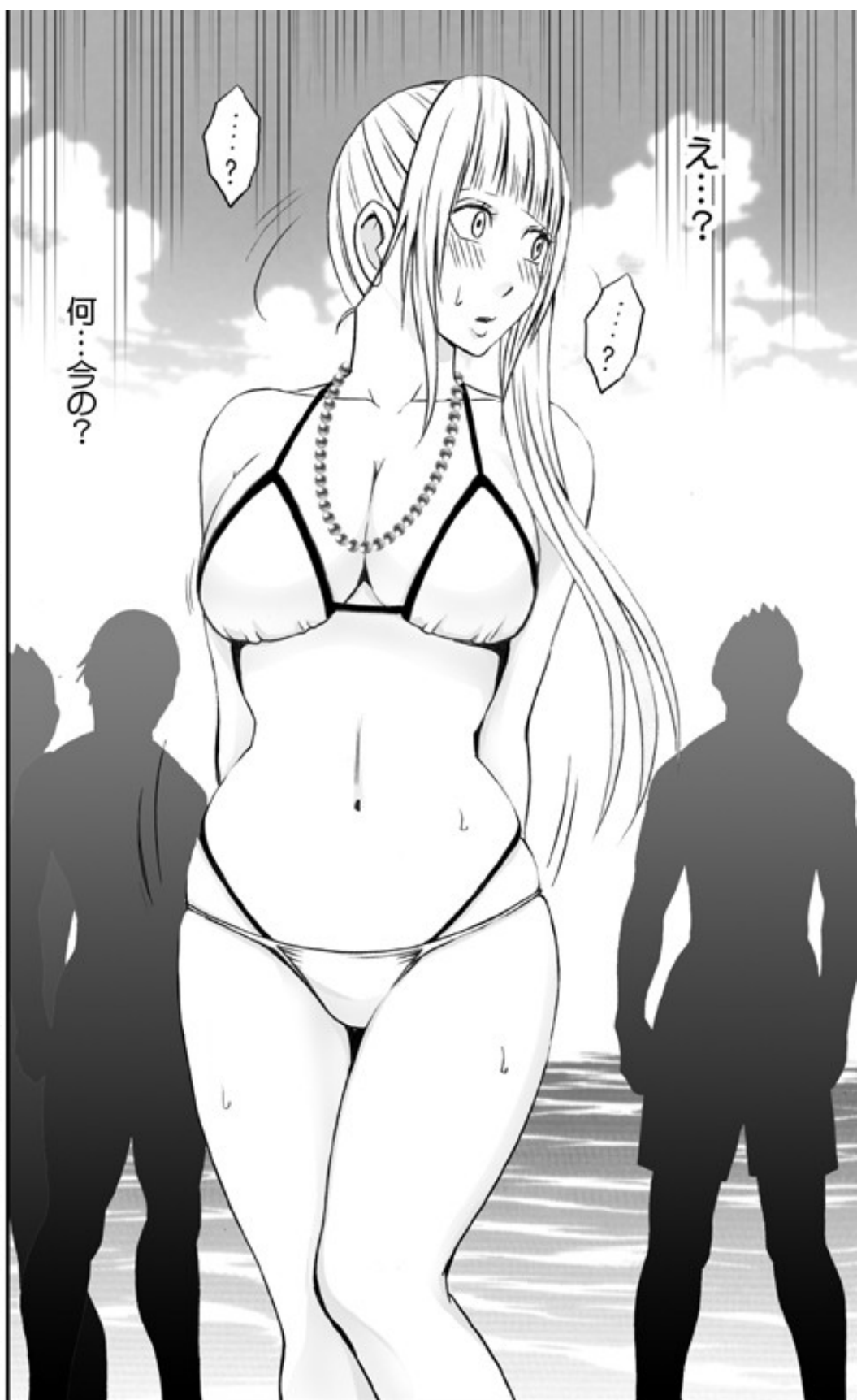
淫霊である
鈴蘭のエネルギー
となるもの

それは
淫気

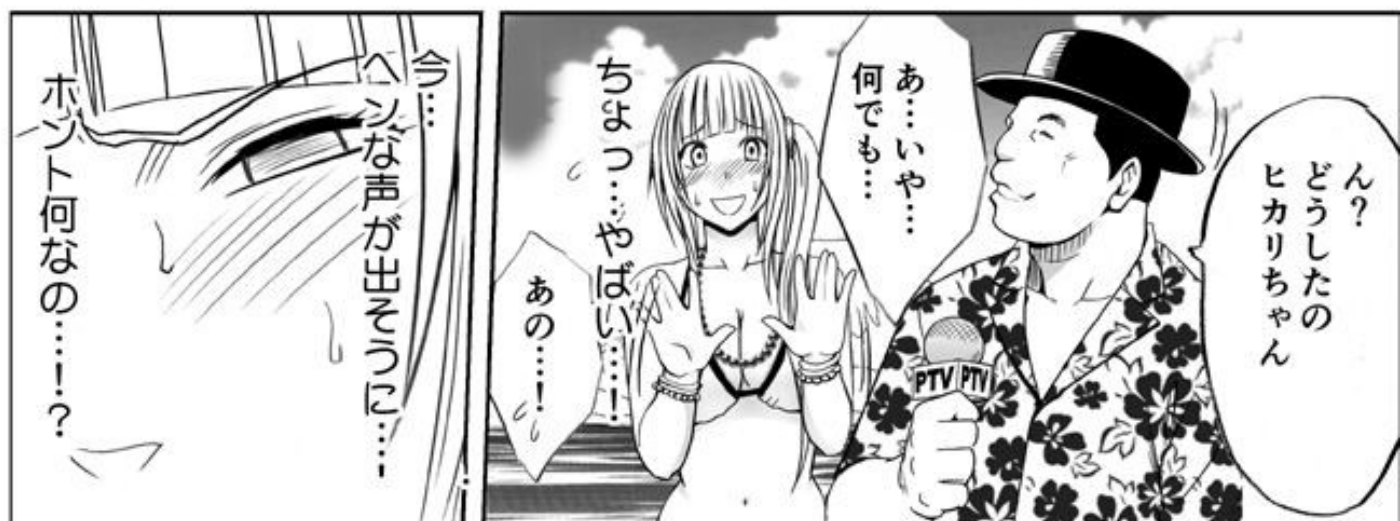
人が
持ちうる

性への欲求











テレビ収録という
ただでさえ
目立つ行為で

露出度の高い
水着姿を
さらし続けることで

ありえない程の
男たちの欲望が
一時的に
私に集中して



目に見えない



乳首 舐めてえ

欲望の塊が

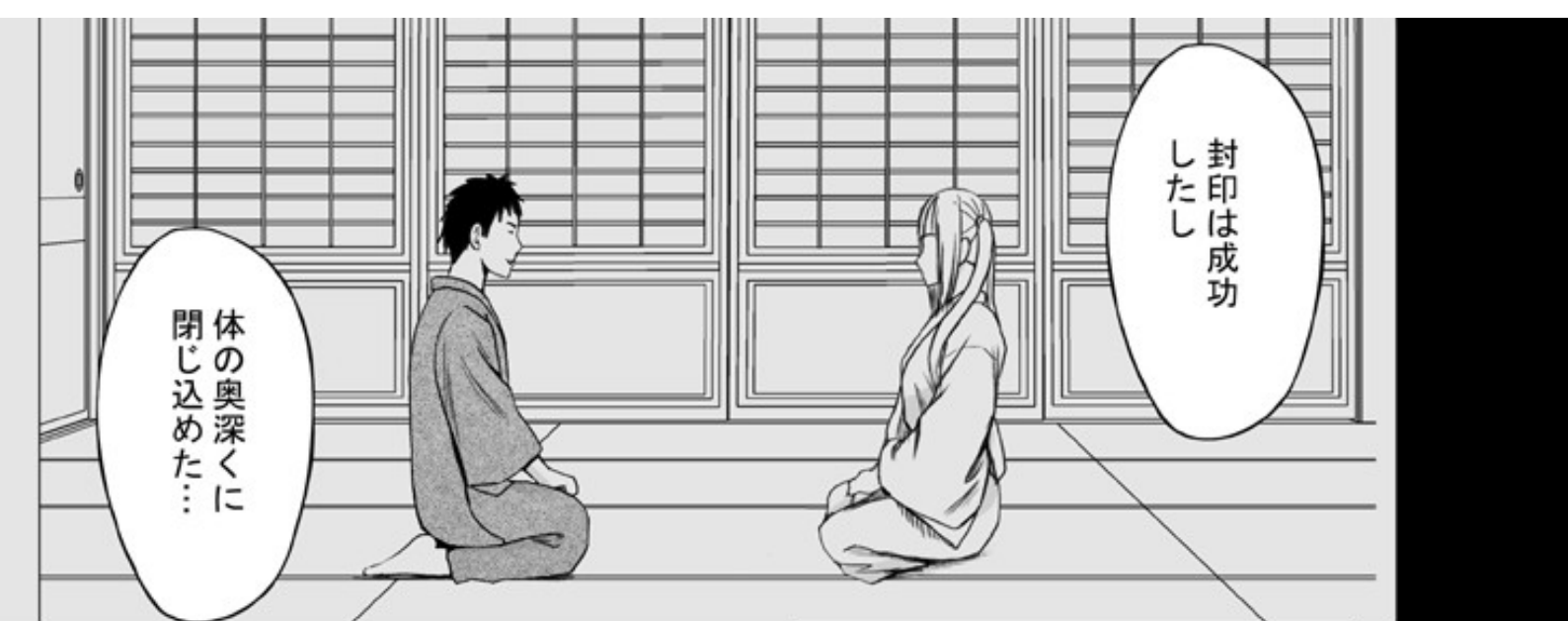
敏感そうな
オッパイ

肌スベスベ

ペロペロ
してえ

いくつもいくつも
私にぶつかってきて





封印は成功
したし

体の奥深くに
閉じ込めた…



もちろん普通にしていたら
簡単に封印が
解けることはないけど

もしかしたら
何らかの力が…



外からの
強い力が
加わったりしたら

封印が解けることも
あるかもしれんから



気をつけなね
ヒカリちゃん

鈴蘭は—



尋常じゃないほど
集中する視線

尋常じゃないほど
集中する欲望

裸に見たい

アイドルとして
人気がでたことが

仇になって
しまっていた

たまんねえ

エロい

エロすぎる

ああ…

ヤリてえ…!!



待って……!

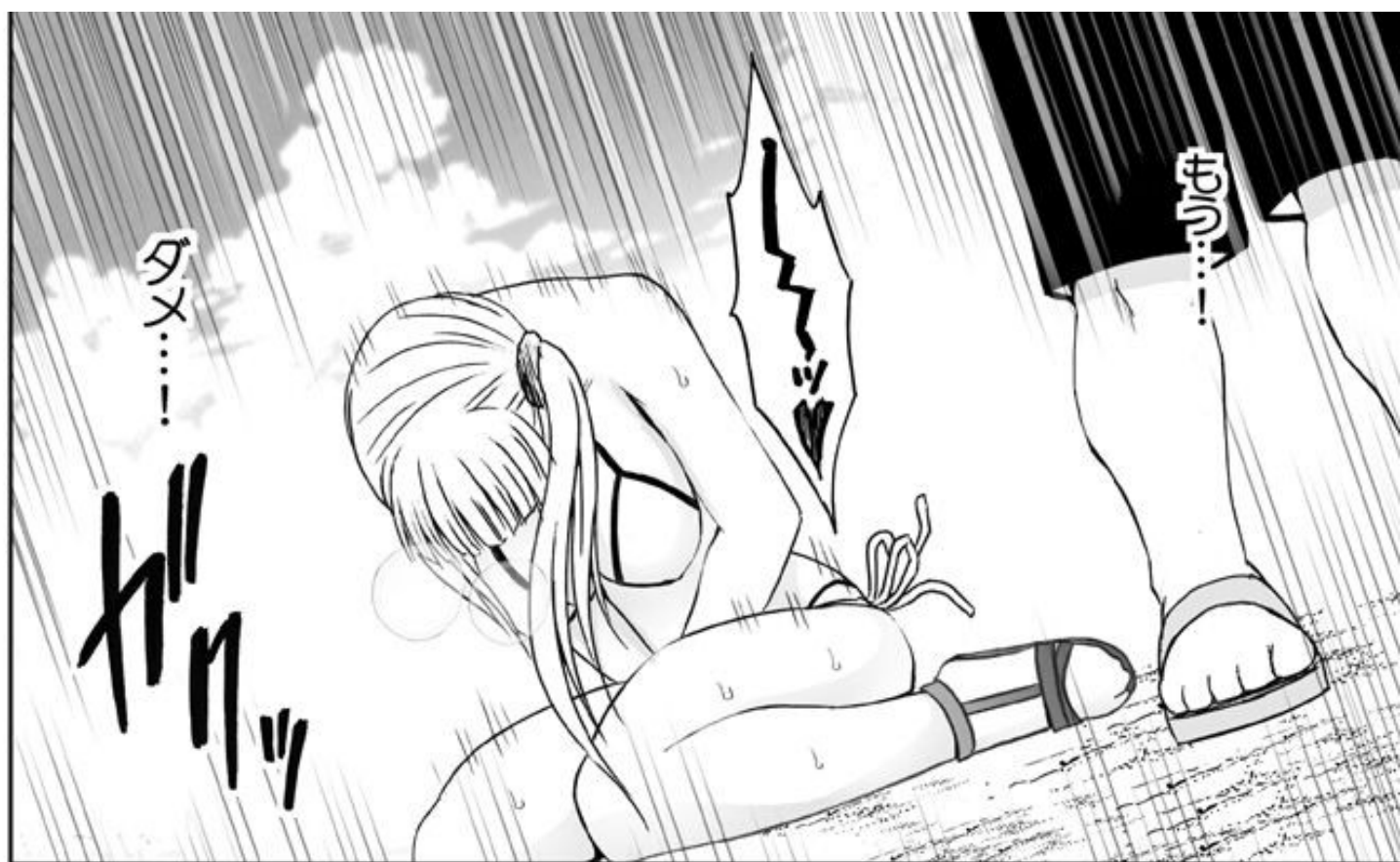
何か
こみ上げてくる……!

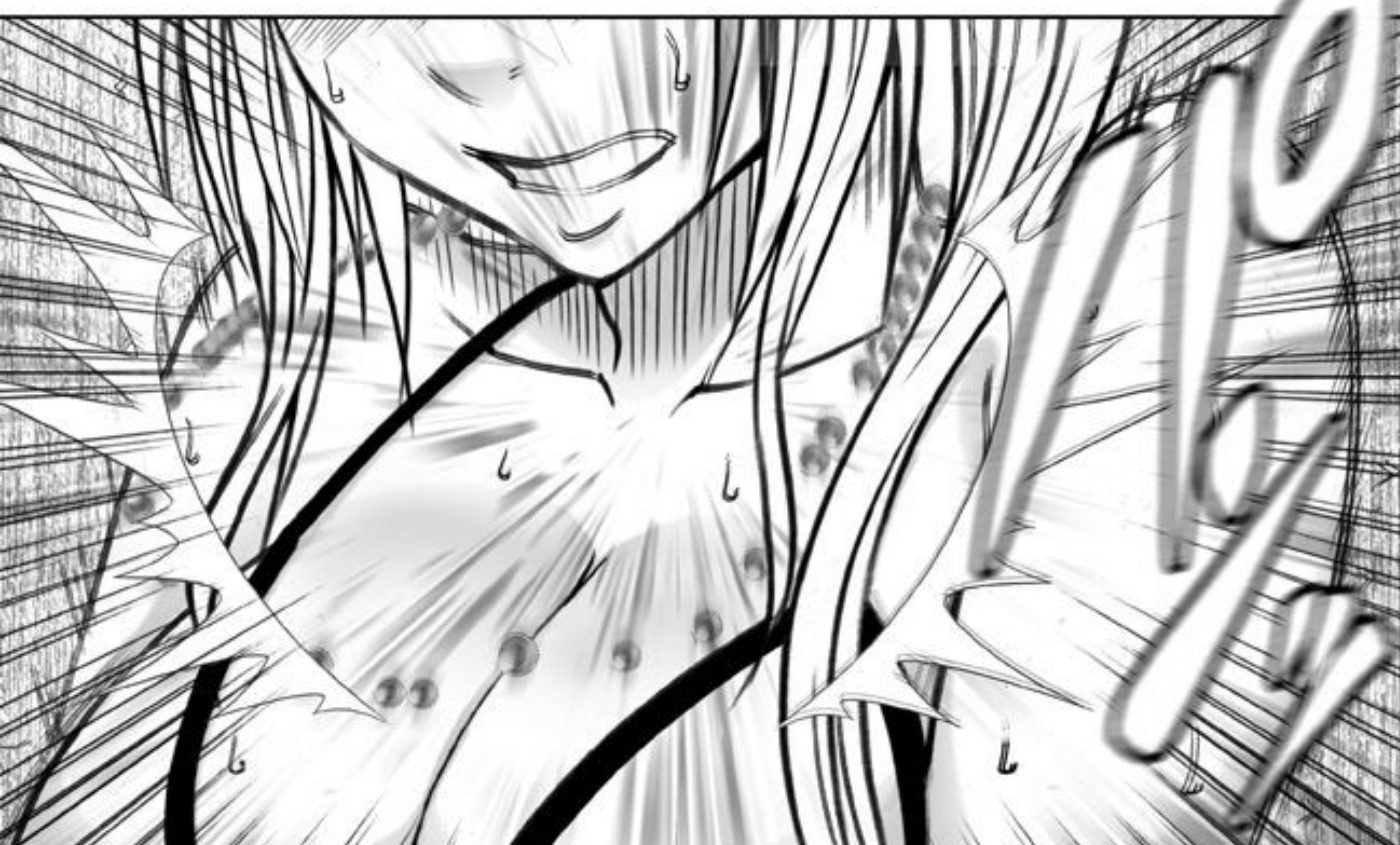
何……!

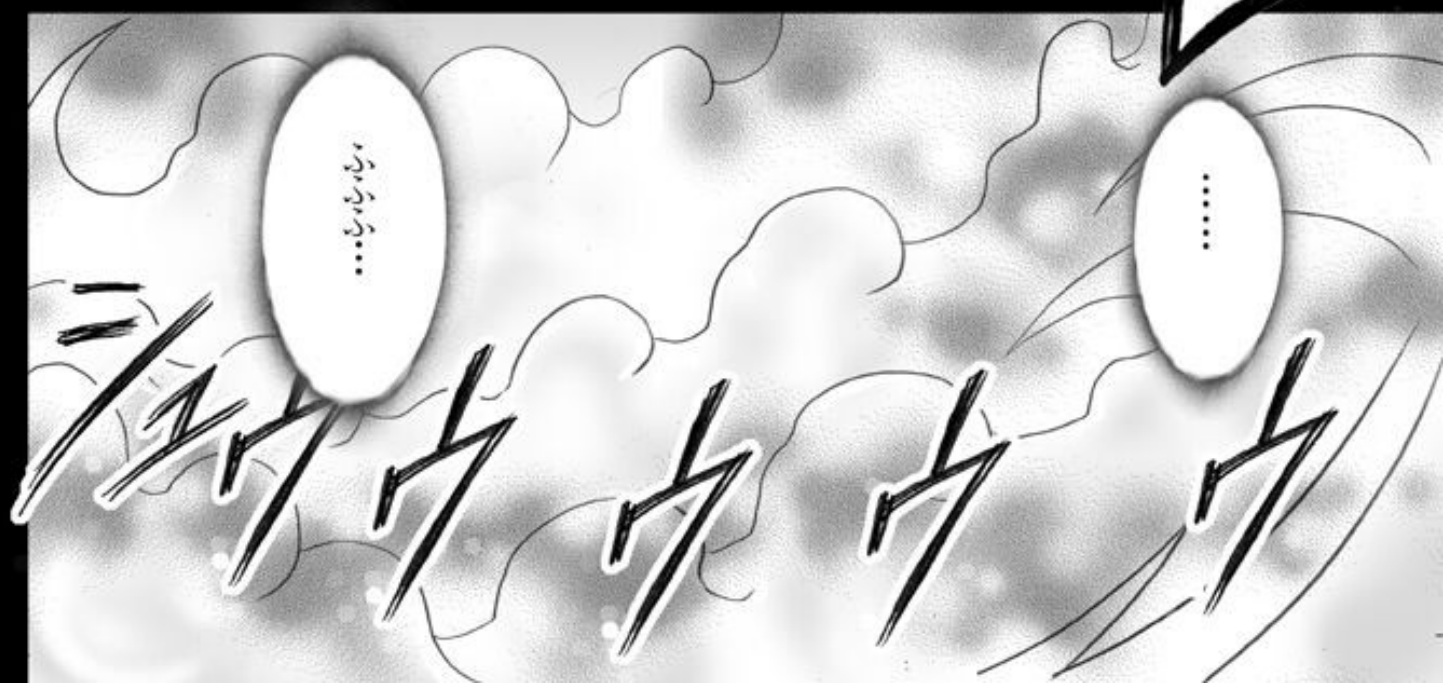
この感覚……!

何……!











天は
もう一度だけ

私に好機をくれると
言うのね

めくるめく
快樂の世界へ…





今…再び…!



そして
鈴蘭は

ひやしぷりね

ヒカリ



ふたたび

私の前に
現れた

敏感アイドルと
快感ゴースト



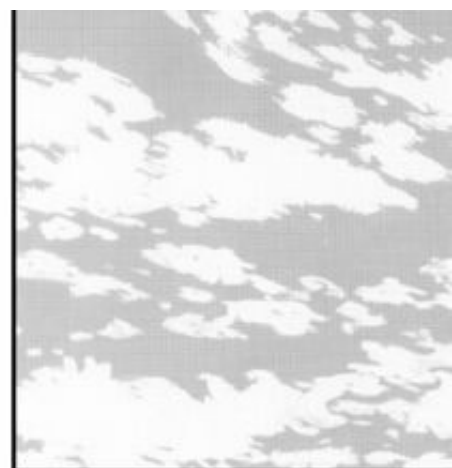


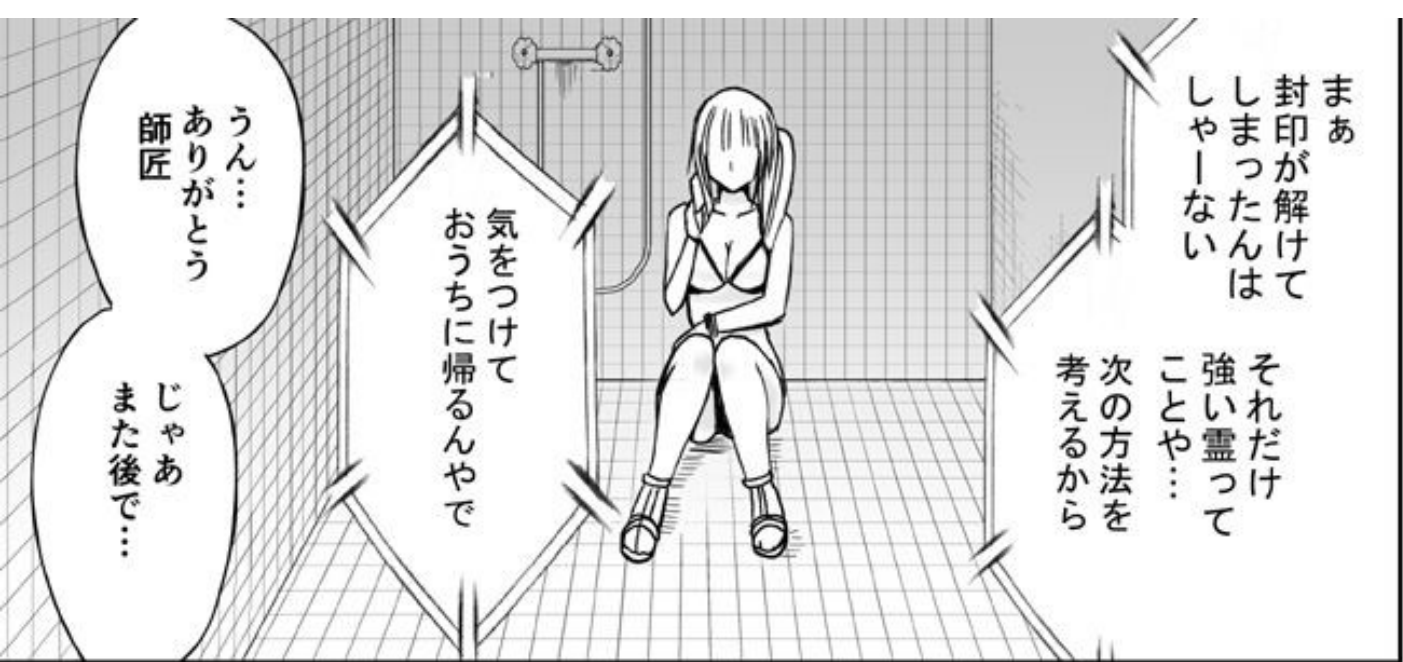
第9話

そして

悪夢のはじまり















いやっ…!!
この男たち
力がありすぎて

ちょっと
心音に乱れがありますね

全然
抵抗できない!!

これは
危険ですね
グググ...



もう少し
ちゃんと
チェックしたほうが
良さそうですね

じゃあ
着衣取りまゝす

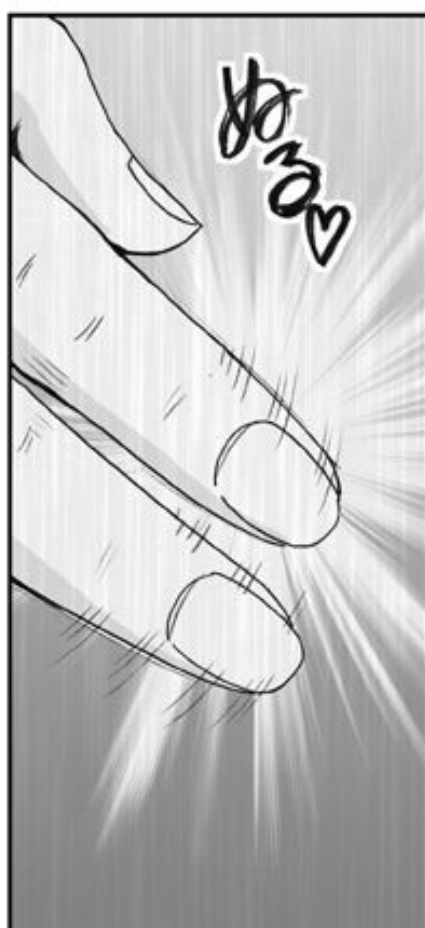


いやっ!!



快感に逆らえない！

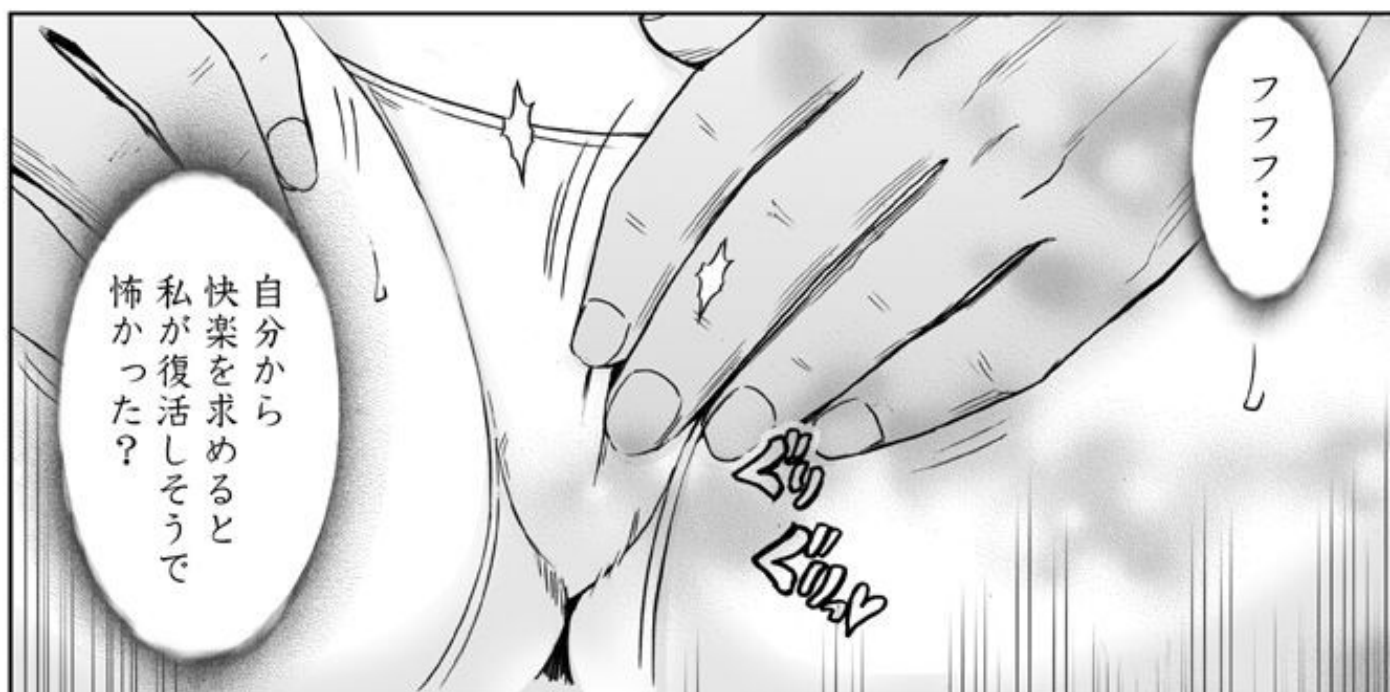




その
敏感すぎて

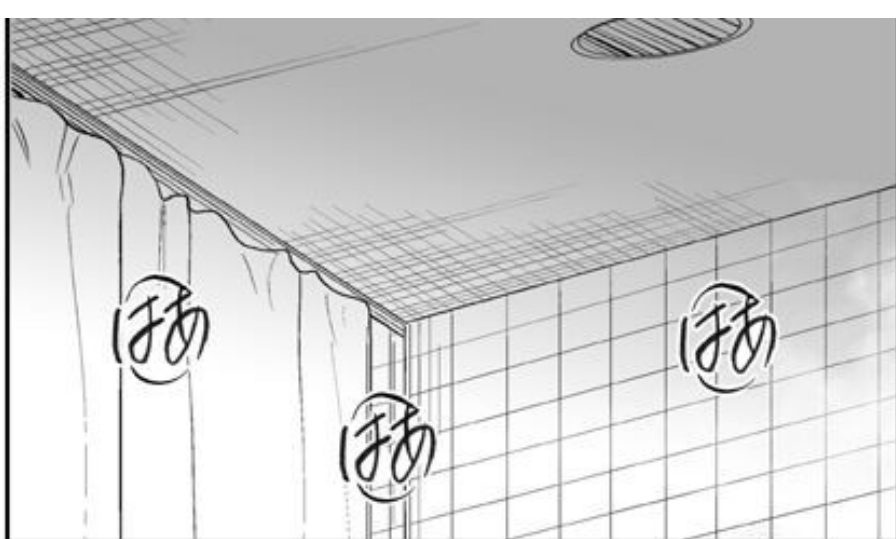
何をされても
イッてしまう
カラダをね…!













究極の快感に
近づいてる

あなたのカラダは
確実に

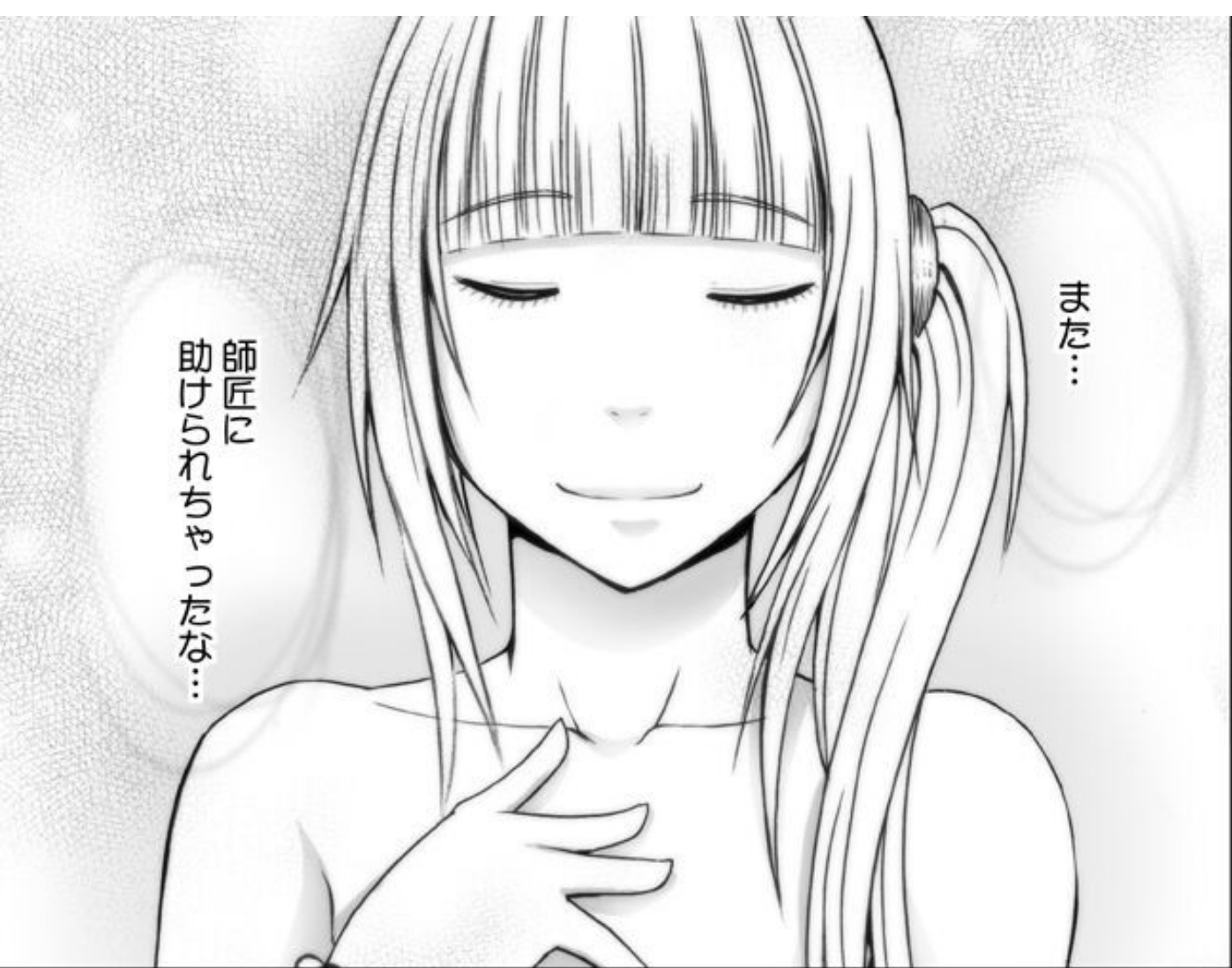
ニャアアア













それから私は
前回の反省をいかして
公共の交通施設を
使わずに

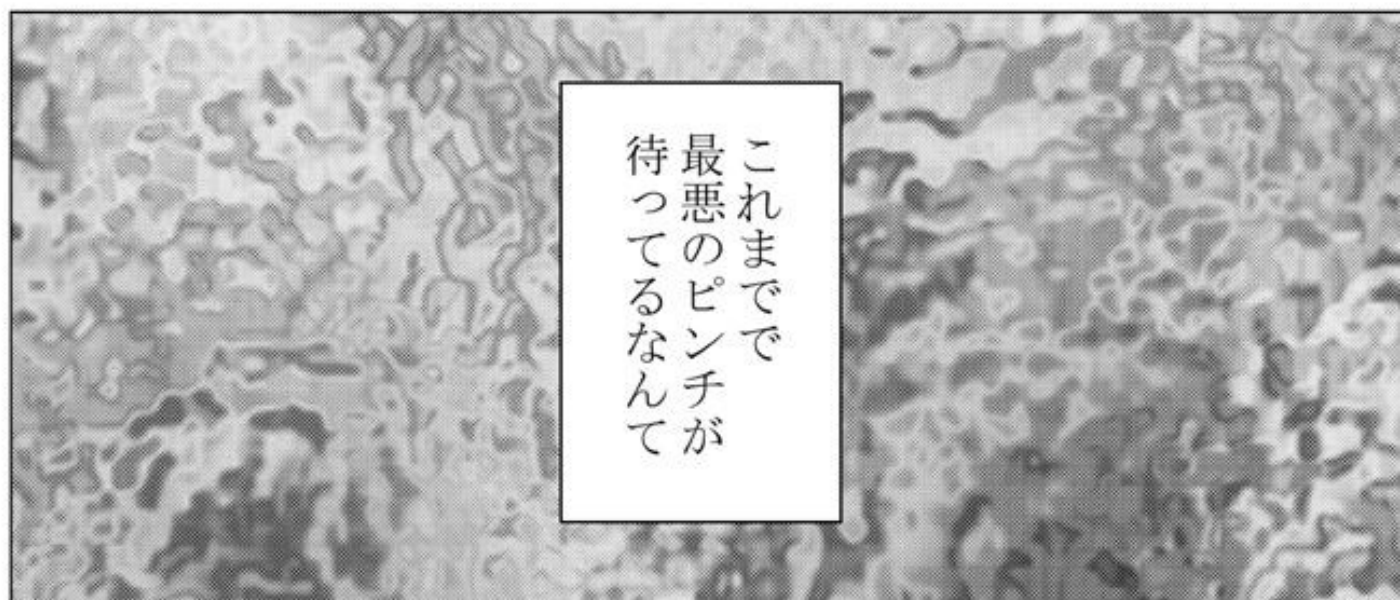
女友達の車に
乗せてもらって

なんとか何事もなく
家までたどりつくことが
出来ただけど



思っても
いなかった

まさか自宅で



これまでに
最悪のピンチが
待ってるなんて

敏感アイドルと
快感ゴースト

鈴蘭が復活して
数日

無事
家に帰ってきた
私は

極力男性に
近づかないように
生活しながら

また師匠のお寺に
行くための準備を
していた

つまらない
誰もいない

何でもつとキラキラした
男たちが
ざわめく歓楽街に
行かないの？

ゆえ
ゆえ

私も

もうこれ以上
知らない男の人たちに
襲われるのは
ゴメンだから

アンタの思い通りには
ならないからね

前回
とり憑かれた時は
無計画で飛び出して
いろいろ
大変だったから

今回は
同じ失敗は
繰り返さない！

ちゃんと事務所にも
連絡して
お仕事も数日間
正式にお休みを
もらうことが
出来たし

(前は無断で休んで
怒られた...)

車を持つてる
お友達の女の子の
予定も確保出来て

明日には
車で送ってもらえる
ことになったし

万が一に備えて
食料とか護身用具とか
現金もそろえたし

今回は
準備ばっちり♪

あゝあ
また私...
封印されちゃうの？

今度もまた
うまくいくとは
限らないわよ

それに...どうせまた
復活しちゃうん
だからね
フッフ...

ねえヒカリ

何がそんなに
気に食わないの？

あなただって
男にカラダを弄ばれて
イッてるじゃない？

...

気持ちいいんでしょう？

気持ちいいのに
イヤなの？



知らない男たちに
襲われるのは
イヤって言うてたけど

じゃあ
あなたのことを
知ってる

あなたのことを
大好きな人に
襲われるのなら
いいかしら？



あら？
赤くなつた？
どうしたのかしら？

いそいそ♡

ちよっ…
なんでもない！

いつものように
鈴蘭と



……

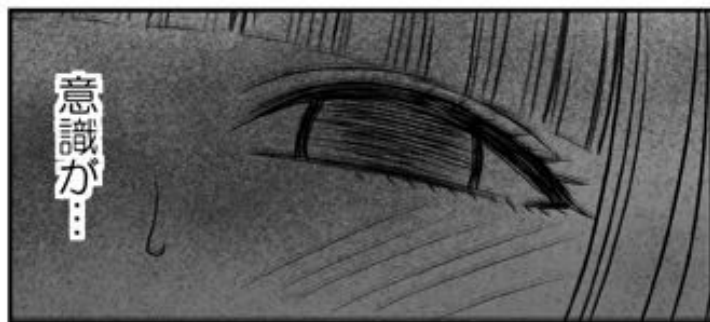
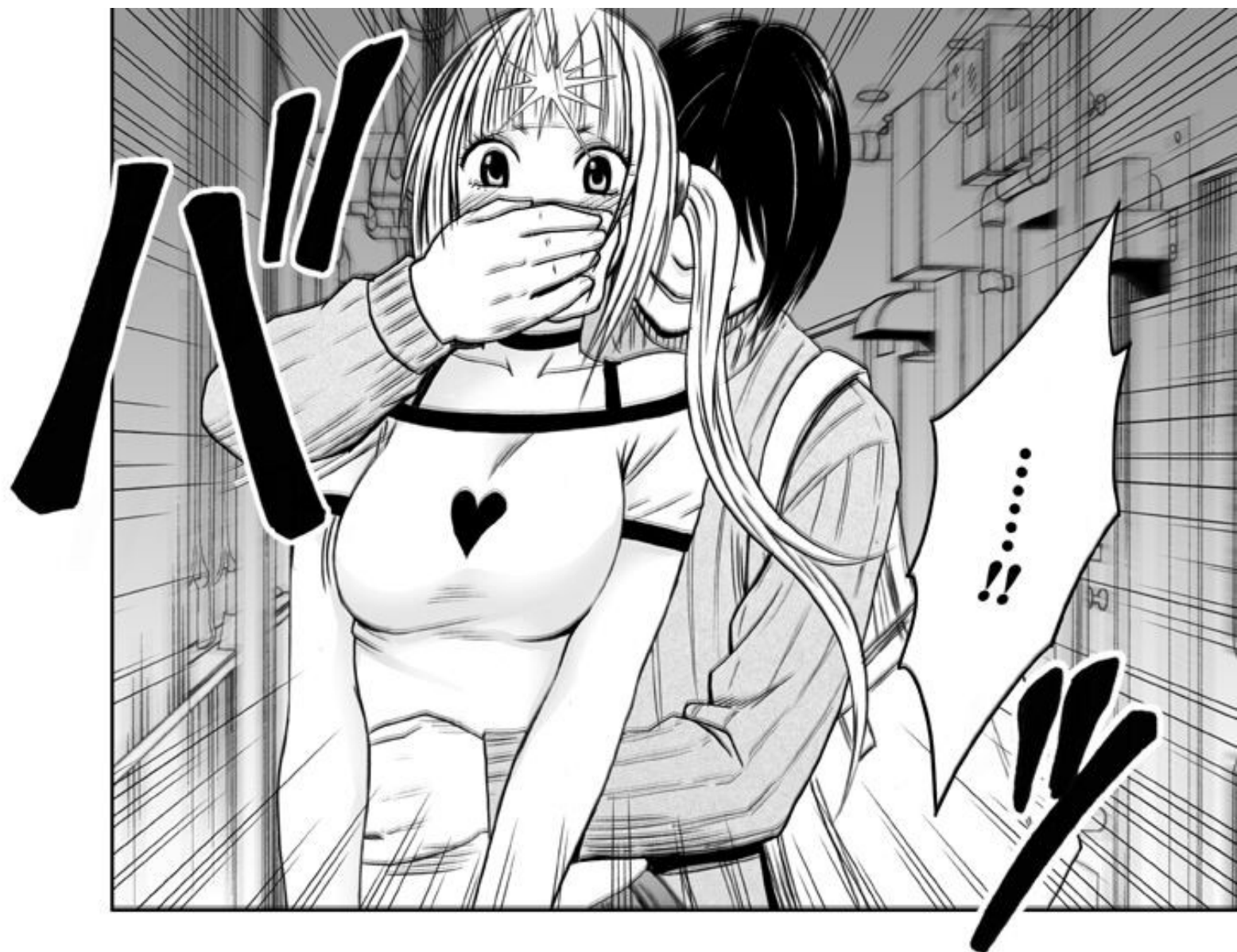


その時



結論もでない
議論をしながら

帰宅しようと
していた



第10話
異常な執着





いやあ…
ドキドキするなあ

初めて入る
ヒカリちゃんの
部屋で…

ヒカリちゃんと
2人きり…

他のファンの
みんなに
嫉妬されちゃい
ますね…フフ…

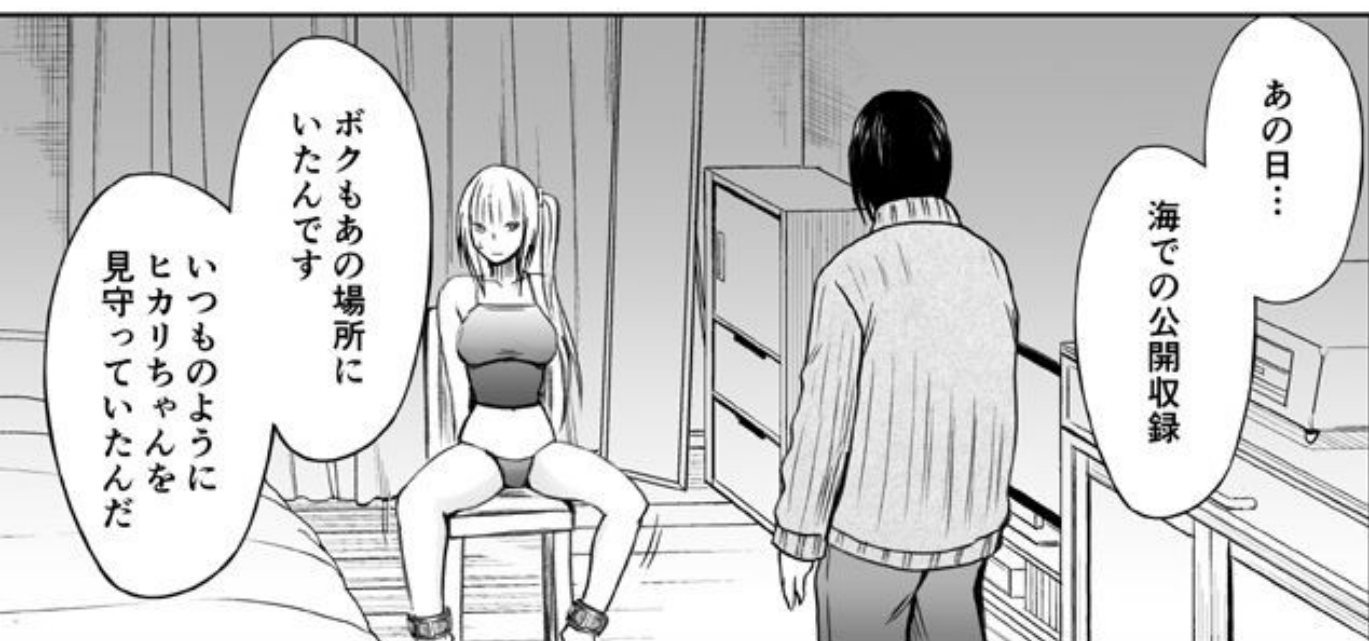


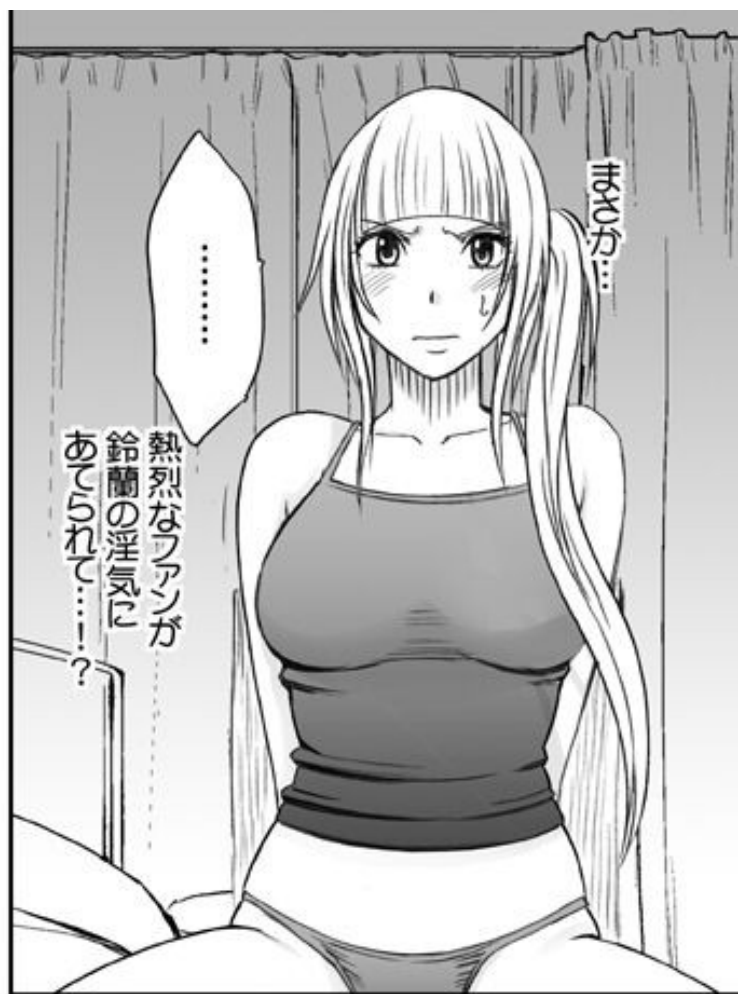
手荒なマネして
ゴメンね
ヒカリちゃん

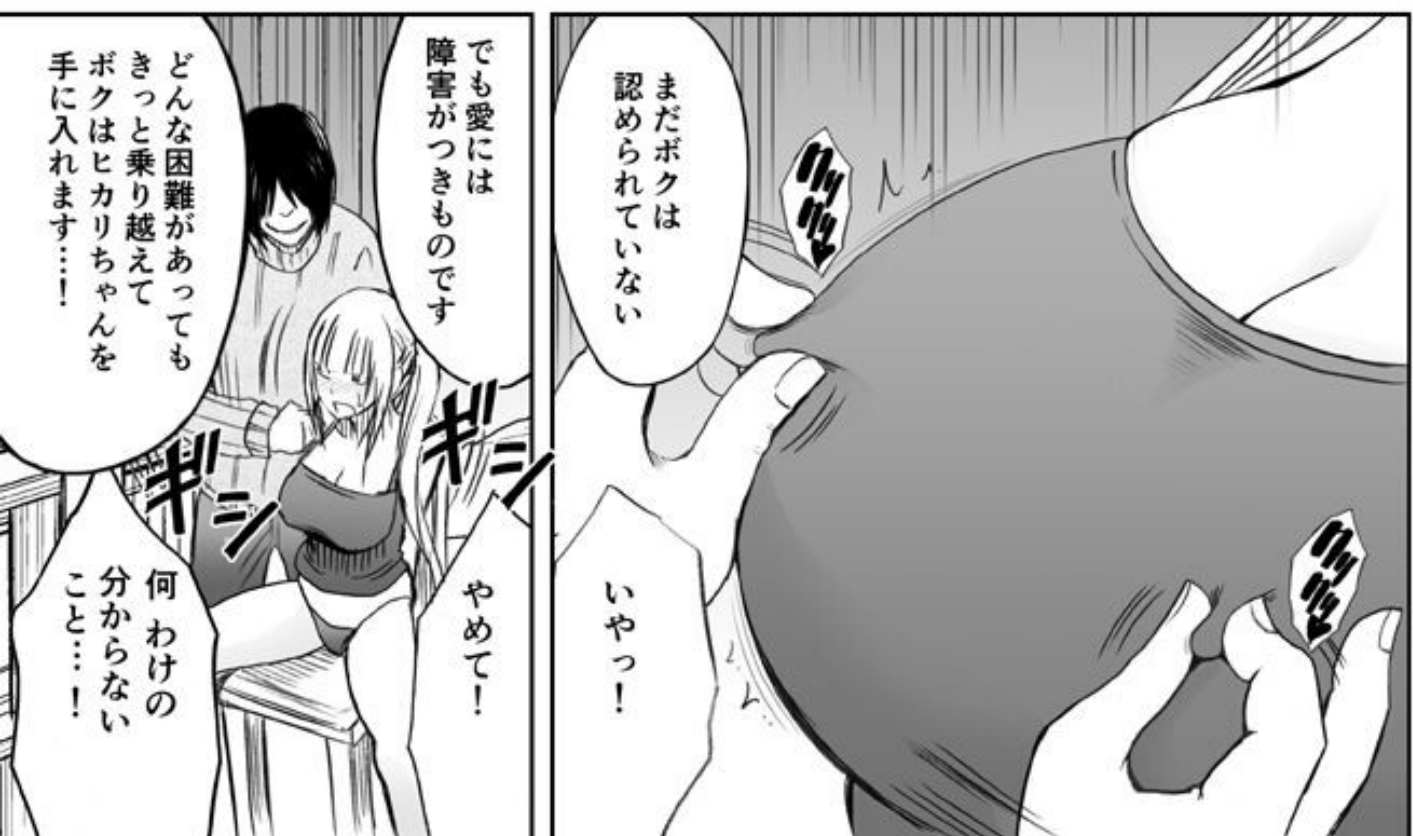
でも
これも全部

ニヤマ…

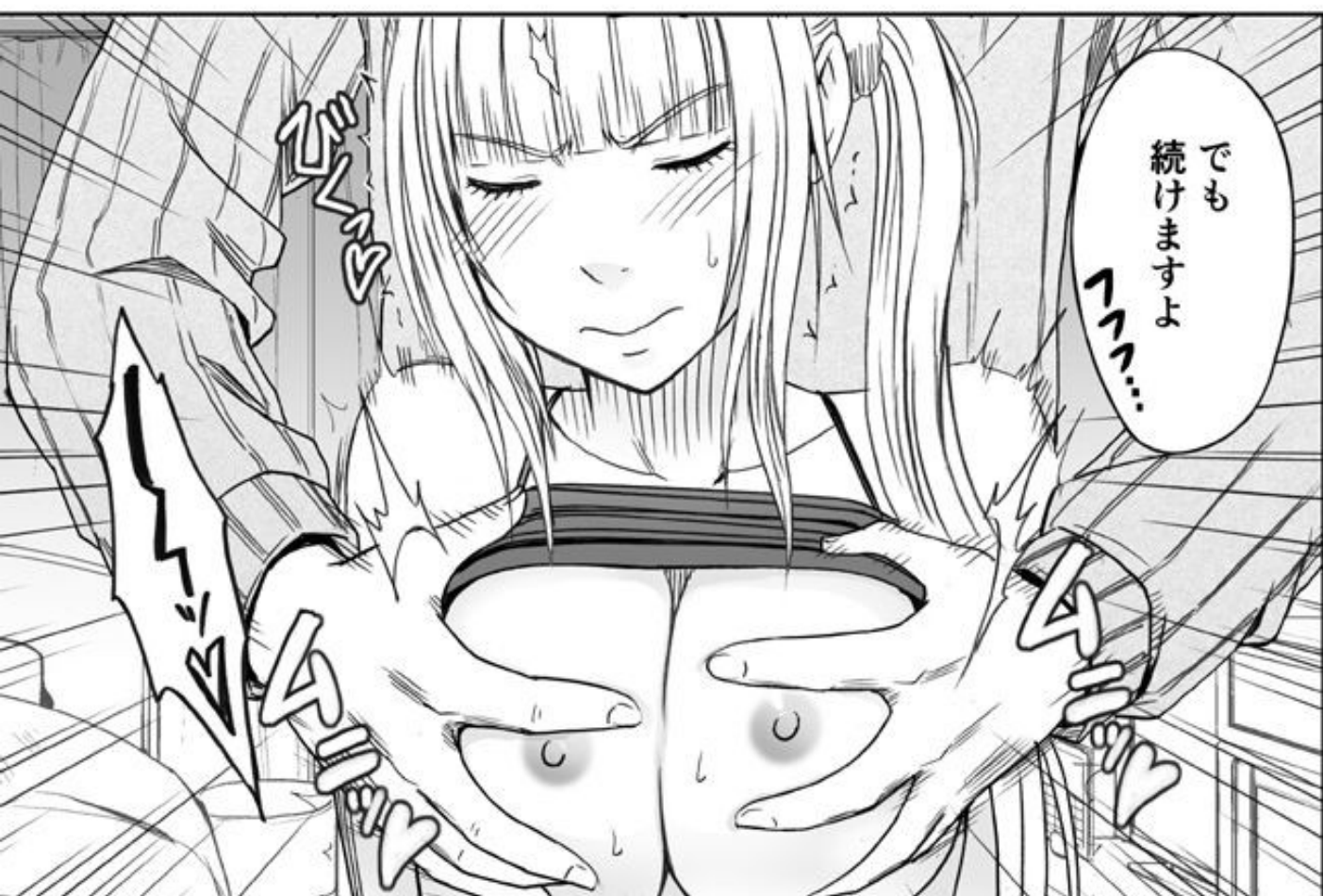
ヒカリちゃんを
愛してるから
なんだ















今までのような
ゆきずりの男たちとは
わけが違うほどの欲望…
それが――

他人のエネルギーに敏感な
アナタの体と

私の淫気との
相乗効果で

数倍もの
性的刺激を
生み出してしまっている
みたいね

ヒカリ
ちゃん…

ヒカリ
ちゃん



そうですよ
ヒカリちゃんが

ボクのを愛を
受け容れてくれた瞬間

ボクたちは
ひとつになるんです

ほら
ボクのが愛が
わかりますか？

早くヒカリちゃんの
中に入りたくて
うずうずしてるん
ですよ

でも大丈夫です

怖がらなくて
いいんですよ

.....!

ヒカリちゃんは
処女って
分かってますから

ボクは紳士です

ヒカリちゃんの
同意なく
無理矢理したりは
しませんよ

ちゃんと
ヒカリちゃんが
良いつて
言ってくれてから

ヒカリちゃんの
ほうから
欲しいって
言ってくれてから…







こんなので…

イクわけには…!!

びくびく

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



一回でも
イッちゃったら…

もう…!!

ズリ
ズリ

クッ
クッ
クッ

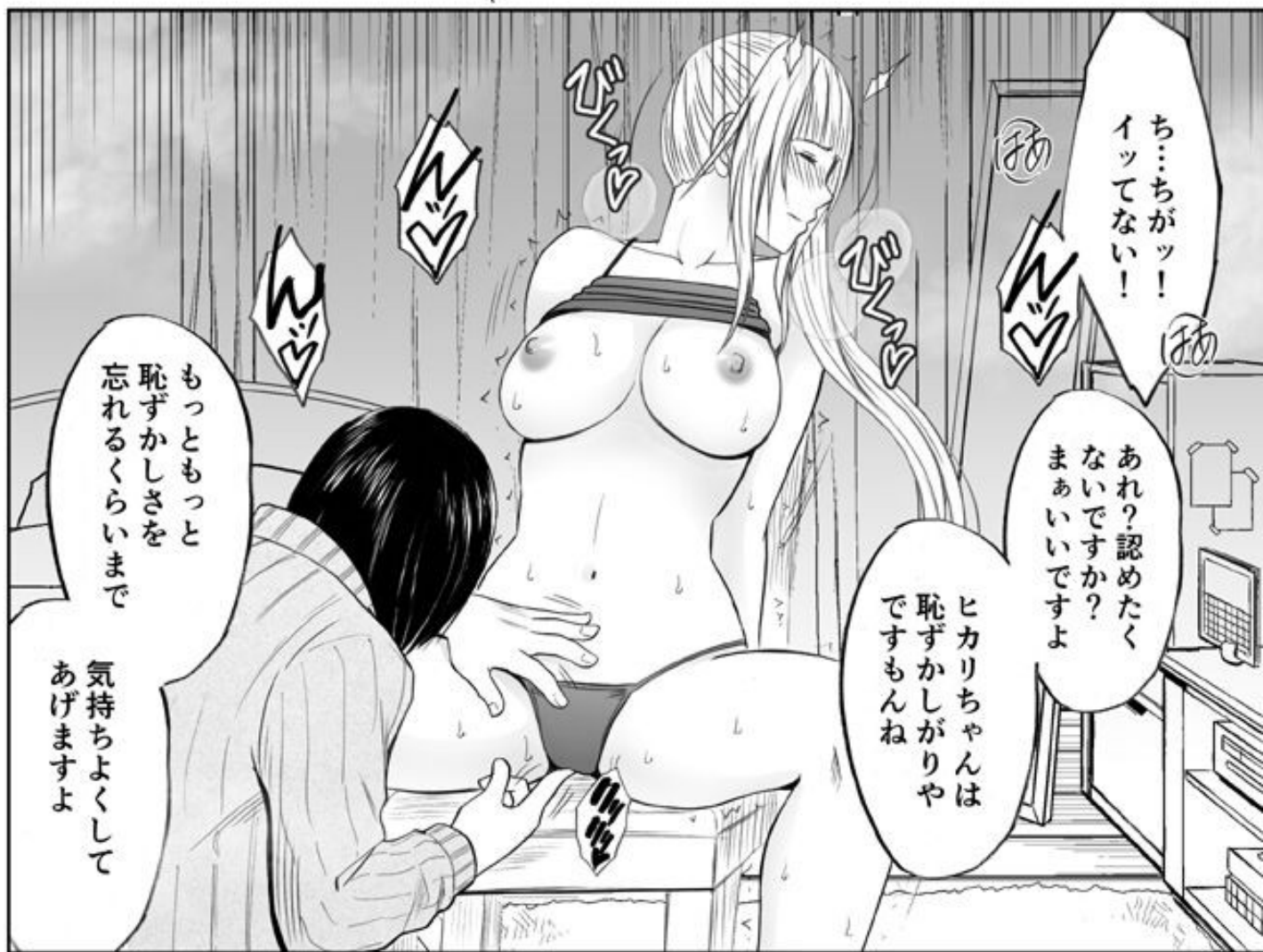
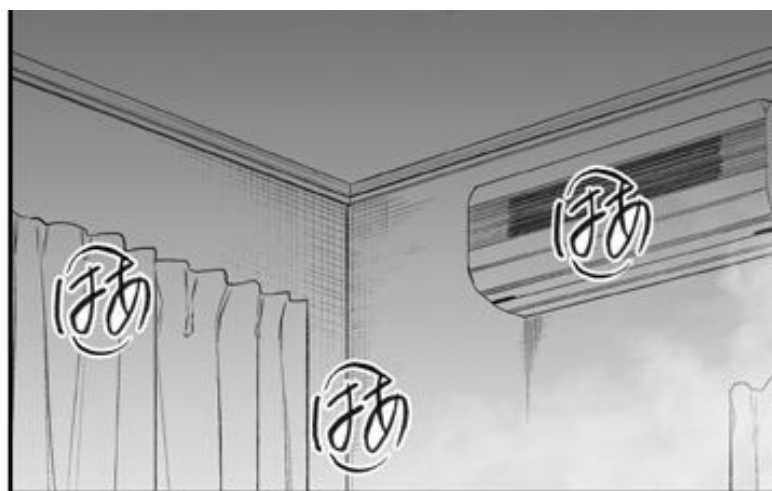
ビクビク





イキました？

ん…？



ち…ちがッ！
イッてない！

あれ？認めたく
ないですか？
まあいいですよ

ヒカリちゃんは
恥ずかしがりや
ですもんね

もっともっと
恥ずかしさを
忘れるくらいまで

気持ちよくして
あげますよ



ダメッ！



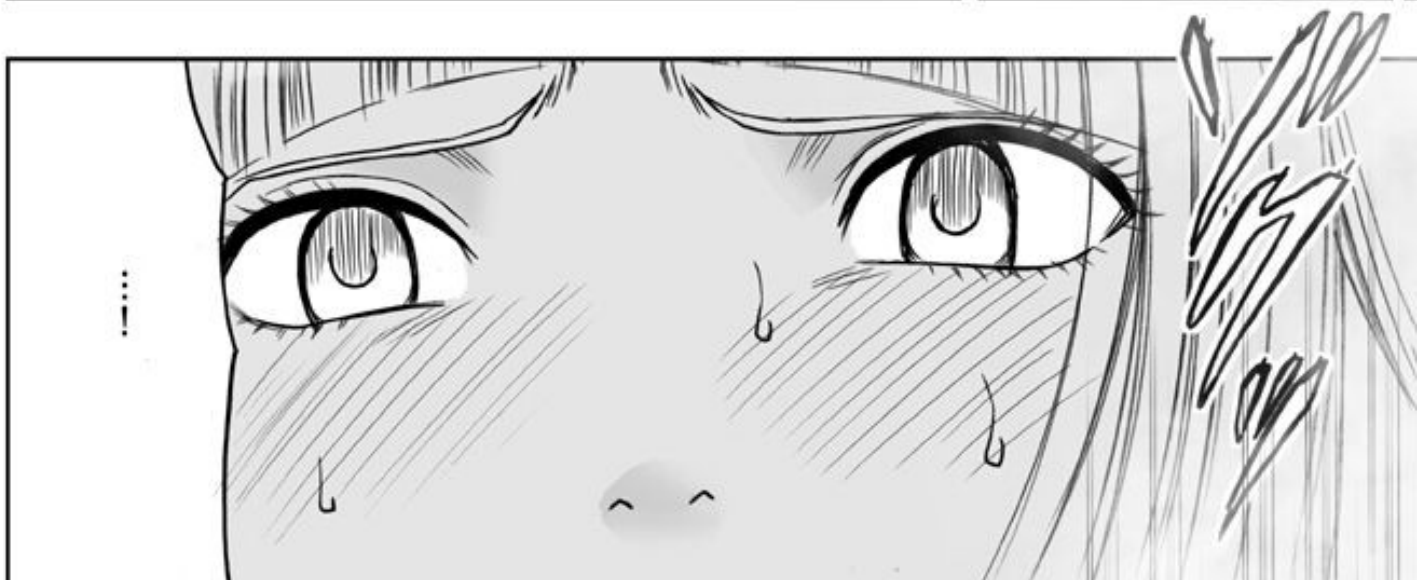
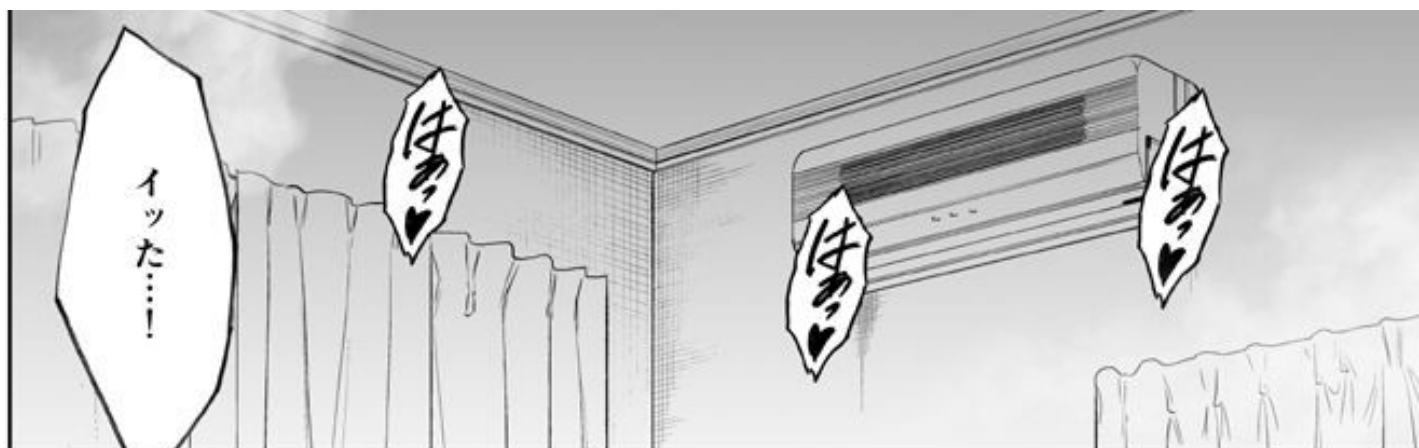
やっ！

見させて
もらいますね



とりあえず
一番恥ずかしい
部分を









ダメだ…!!

やばい!!
この人はやばい!!



この人は異常だ!!

こんなに
周到に

私を犯すための
準備を
してきてるなんて

びく
びく

びく
びく

ブル
ブル
ブル

ブル
ブル
ブル



鈴蘭……！



ダメだ……！

師匠にもらった
数珠も
外されてるし

私一人の力じゃ
もう
逃げられない！



……
ん……
そうねえ……

前回は
クスリを使ってくる
卑怯なヤツだったから
特別に
助けてあげたけど



お願い鈴蘭……！

また……前みたいに……！



……!!

そんな……！



今回の相手は
あなたのこと
こんなに愛してくれてる
みたいだし

いいんじゃない？
この人だったら

究極の快感まで
導いてくれるかもよ？

イヤ……!

私はイヤ!

こんな一方的な
人なんて

絶対にイヤ!



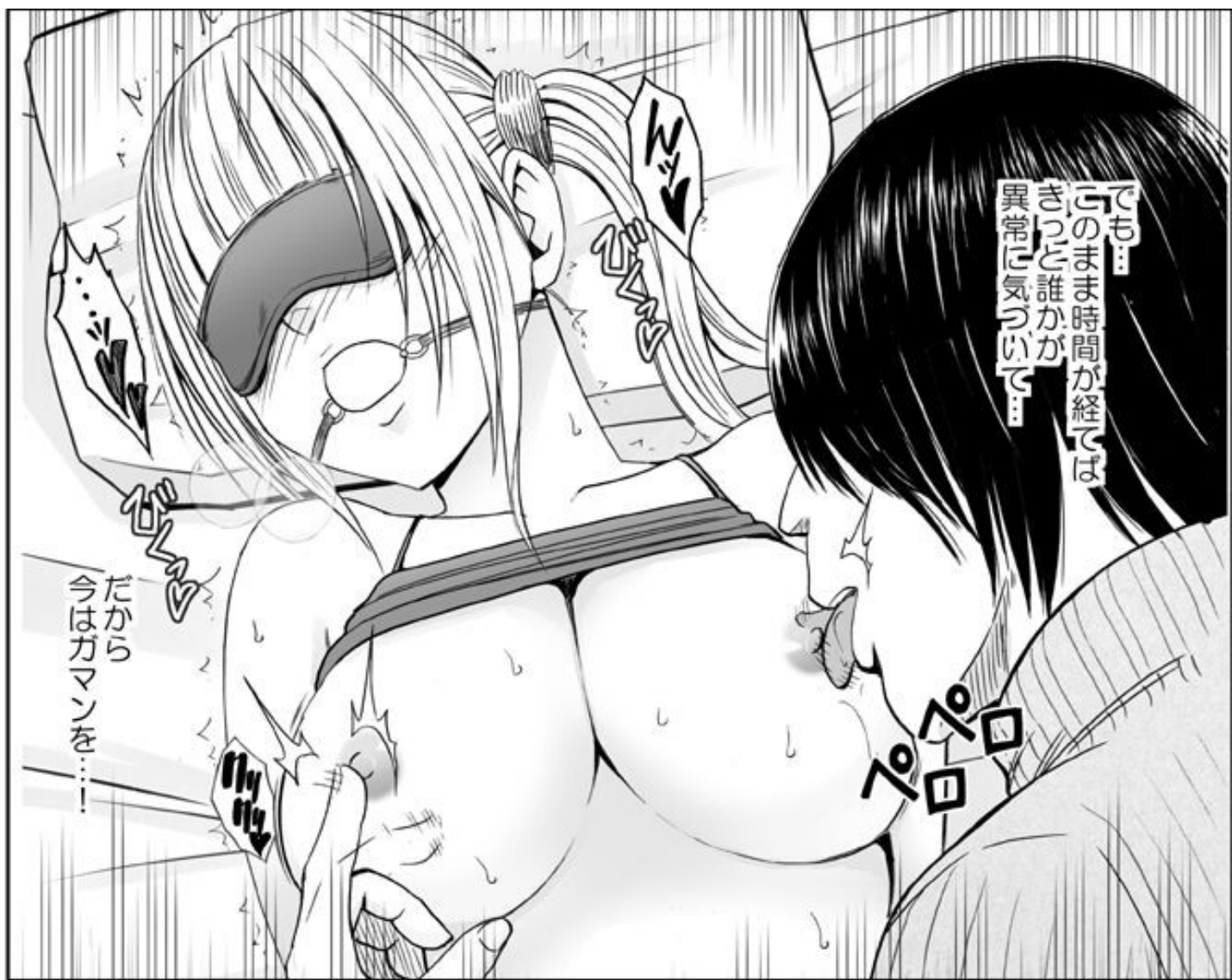
私は諦めない!

絶対に
最後まで

抗って
みせる!

敏感アイドルと
快感ゴースト





ちゃーんと
ボクが全部

予定のキャンセルの
メールを
送っておきました
から♪

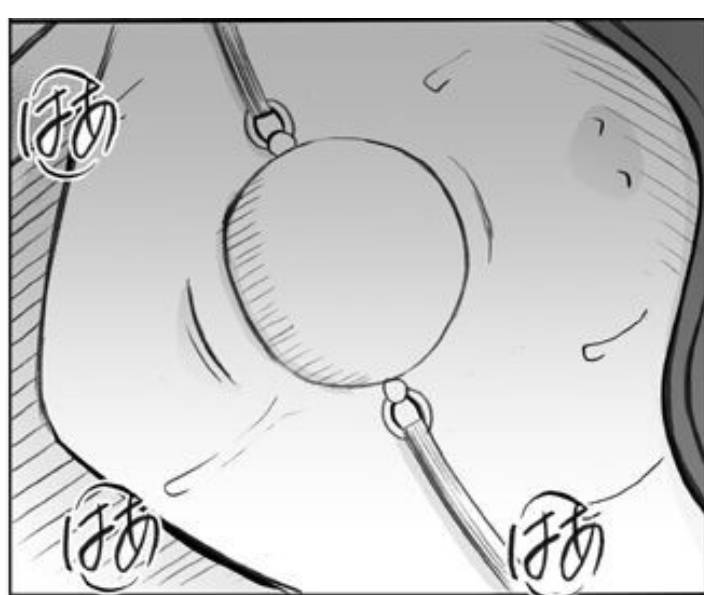
.....!

それに
もう携帯の電池は
抜いたし
GPSも切ったし

念には念を
入れて…ね

ボクとヒカリちゃんの
愛の営みは
誰にもジャマを
させませんからね

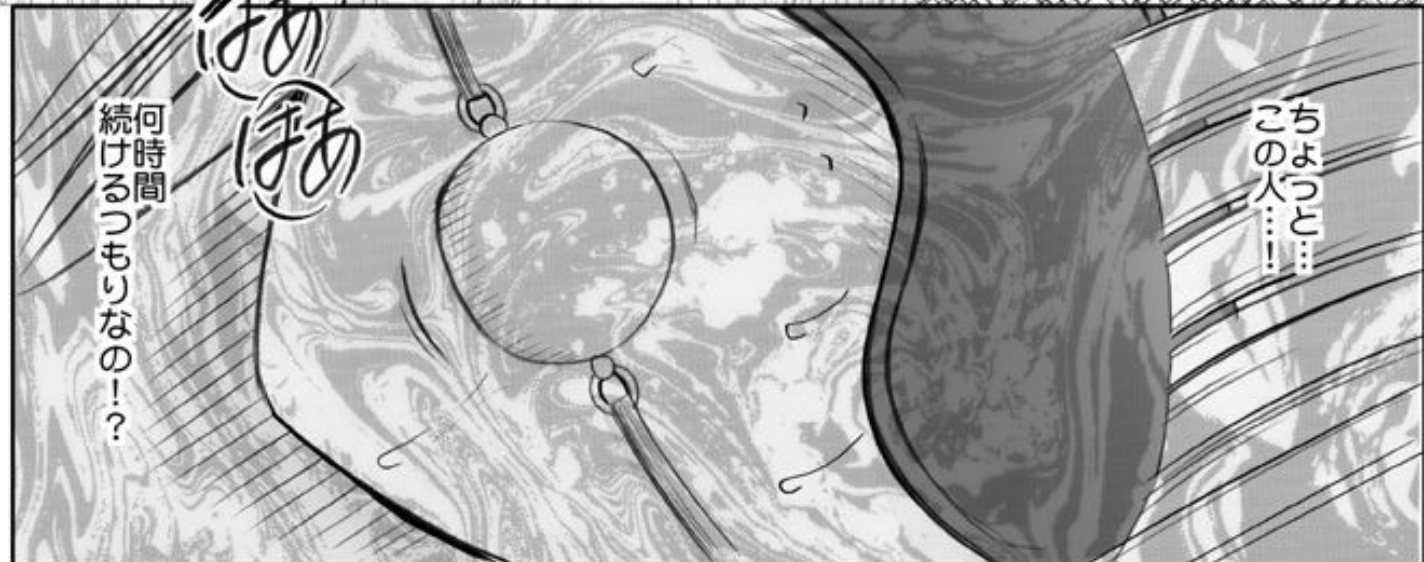






第10話
どうして求めるの？







指を適当に
動かされるだけで

カラダが勝手に
たかぶって…!!

もう
じいちゃんいじめる……

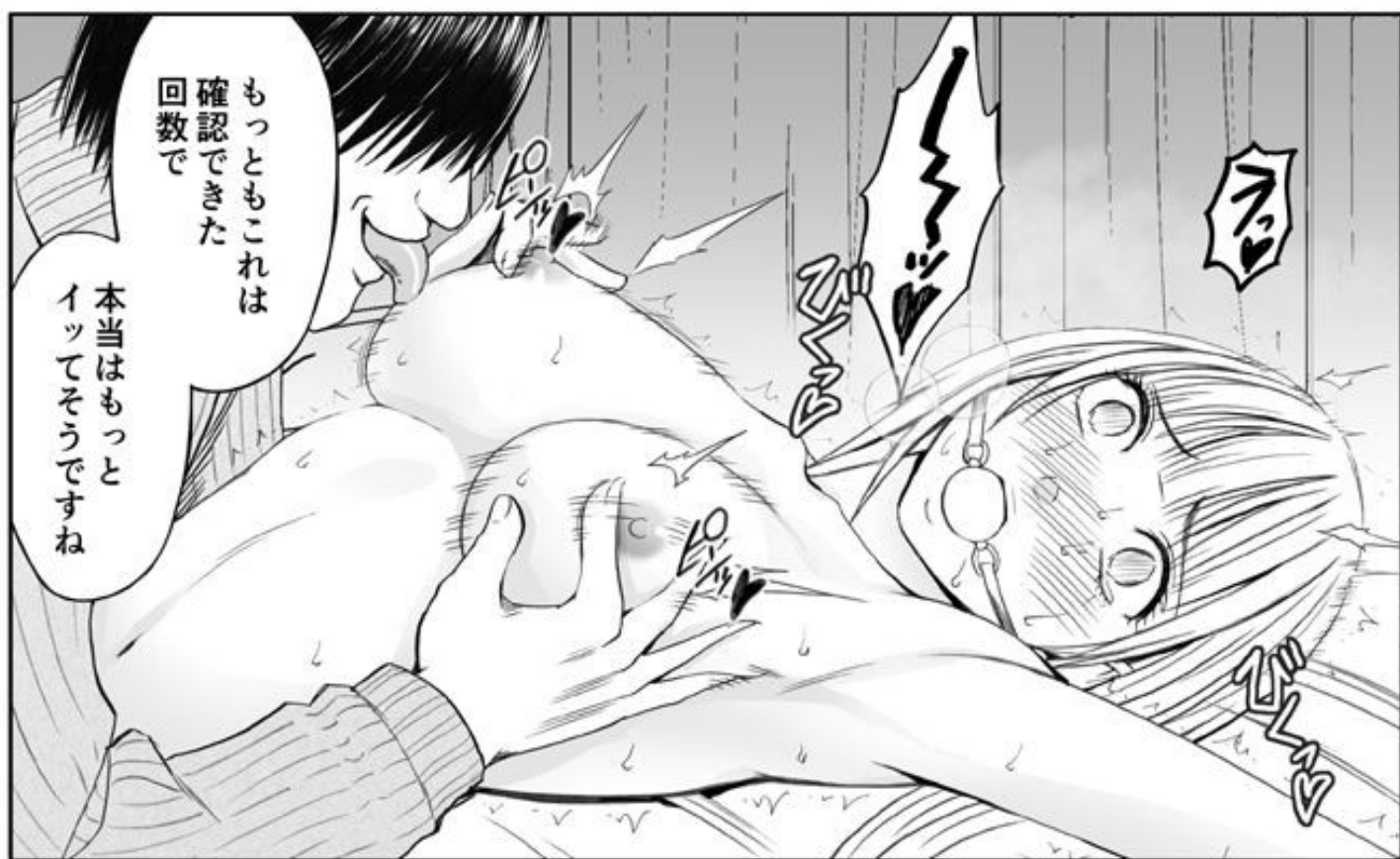
ああッ!
また…ッ!





















ダメ……！
イキたいけど

認めたら
終わっちゃう！

ガマン
しないと……！

今までも何度か
襲われて
無理矢理されて
イカされるのも
すっごく
屈辱だったけど

イカされずに
寸止めし続けられるのも

こんなに
つらいなんて……！





でも…
少しでも長く……

耐えつゝねば

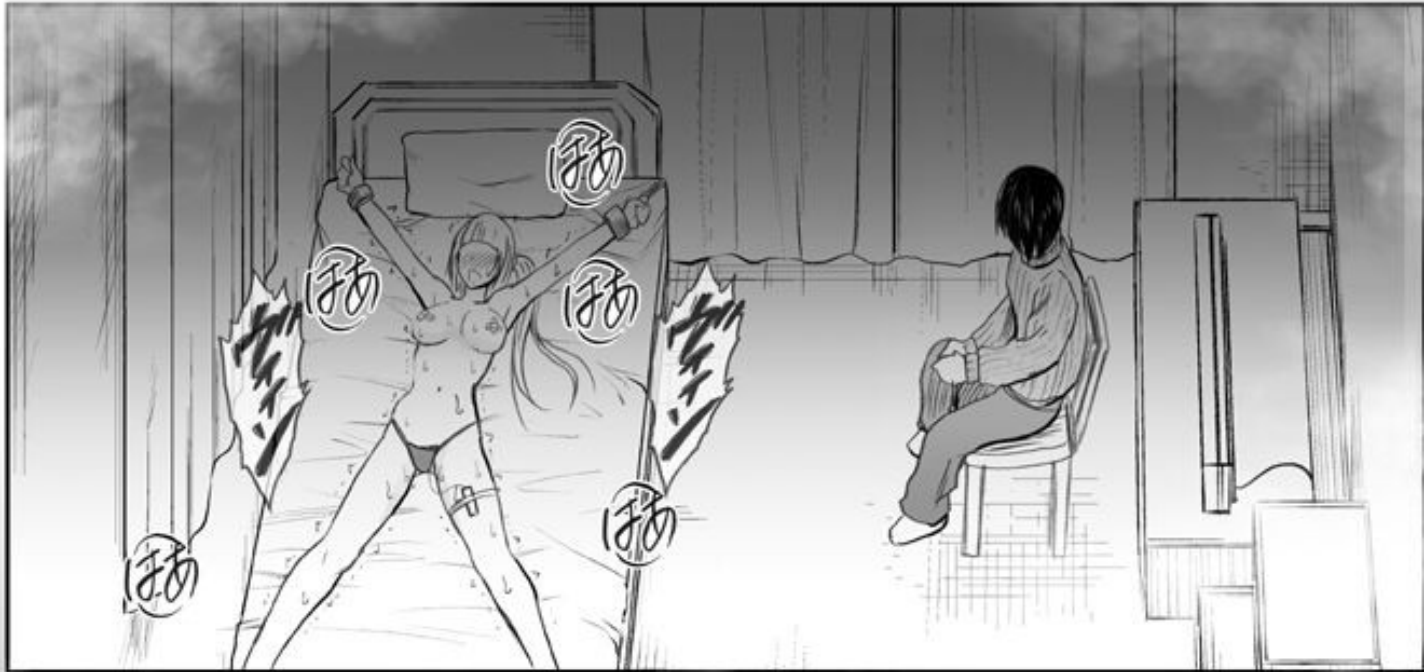


いつかチャンスが……！



心まで屈するのは

絶対にイヤ……！



アウウウウ...

10数時間
攻め続けられ
疲れきった私は

いつのまにか意識を
失っていた

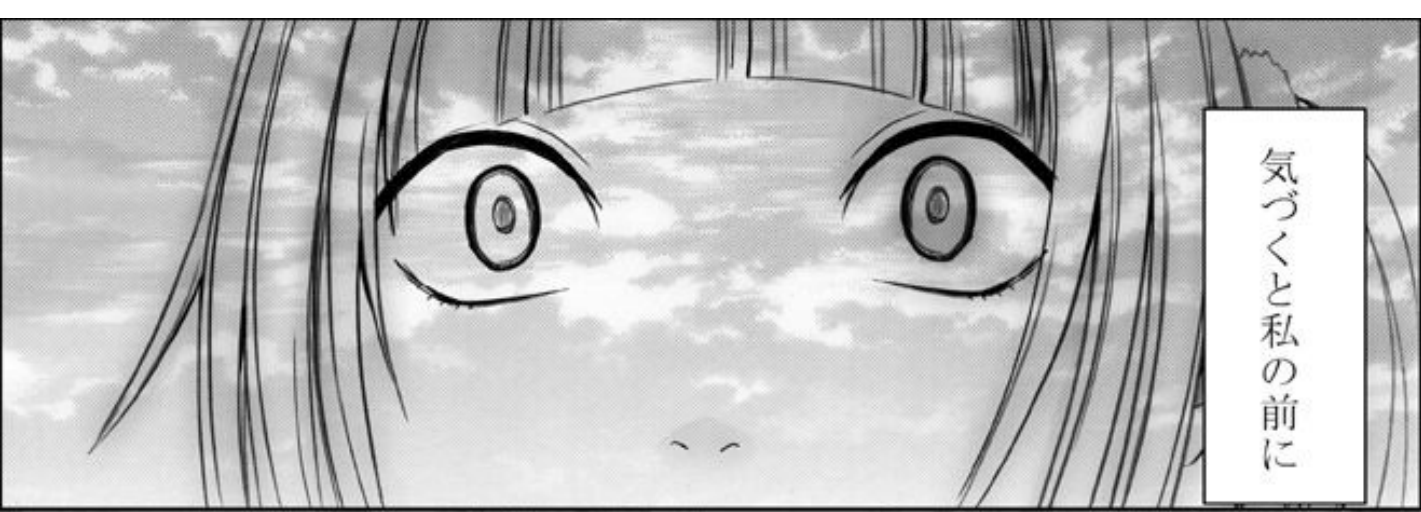




自分がどろどろの
液体に
なったかのような
深い眠り…

極度の疲労で
私の意識は

今までにないほどの
深みに
落ちたのだろうか



気づくと私の前に



見知らぬ風景が…



知らない風景…



…何に…

これは何…
夢の中…？



これは…

平安の…？



鈴蘭…

あなたの記憶の…？



せっかく
究極の快感に
近づけると思ったのに

フフ...

スウウウウ



.....



結局
ガマンし続けて
気を失うなんてね

あなたらしいわね





ねえ鈴蘭……

そろそろ
教えてくれない
いいんじゃない？



どうして
あなたは
そんなにも

究極の快感
なんてものを
求めるの？



...



いいわ

そろそろ
あなたとも
長い付き合いになるし

ちょうどいい機会だし



話してあげる

私のこと...

アアア...

敏感アイドルと
快感ゴースト



第12話

快感は
さまよい続けて...





私の母は
薬師だったの



薬師としては
優秀な人物で

女でひとつで私を
育ててくれたの

ただ
夫がいなくてというよりは

特定の夫を持たなかった
だけって言ったほうが
正しいかしらね



夜の営みの薬――

つまり媚薬ね



怪我や病気のために
使う薬も扱っていたけど

主な収入は



私は母が嫌いだったわ



『究極の快楽を目指す』

母……それが
母の口癖だったわね



毎晩のように色んな男と
寝ていたわ

母は自分の身体を
実験台のように使いながら
薬を調合して



ああは
なりたくない
何度も思ったわ

毎晩違う男相手に
身体を叩いて
うめき声をあげる…



村の権力者や
品行方正な愛妻家
礼儀正しい役人――

そんな信頼できそうな
人たちが
母親のもとを訪れて



行為に及ぶ

獣のようになって
母親を犯す



嫌悪で
吐き気を
もよおし
そうだった



そして次の日

に
に
に

何でもない顔をして
私に挨拶して
いい大人を演じる

でも
そんな陰惨な
境遇にいた私にも

笑顔になれろ
ときがあった

それは清兵衛――

反物屋の息子で
私の幼馴染

彼はいつも私のことを励まし
笑わせてくれた

彼は私の母親が
していることを知っても
私自身を軽蔑することなく

私が落ち込んでいるときも
ただ優しく抱きしめてくれた

当時の私の想いは
純真そのもので

清兵衛と結婚し
清兵衛に一生
添い遂げたいと思っていたわ

ただ一人を愛して
ただ一人を愛して

母のように
複数の男を相手に
春をひさぐようなことは
絶対にしないと心に誓っていた

清兵衛だけが
清兵衛だけが
私の心のよりどころだった

でもね

悲劇は突然
やってきたわ



朝起きると
私の身体は
全く動けな
かった



動けないで
いる私の
目の前に
現れたの
は

見知らぬ
身なりの
良い男



……!?



以前にも
経験した
ことのある
全身の痺れ

母親の調
合した薬
だとす
ぐにわか
った

そいつは私を
裸に剥き

身勝手に
犯した

処女だった私が
挿入に抵抗を
感じなくなるほど

何度も何度も――





「恨むなら
自分の母親を恨め」

そう
言い残して
去っていった...



丸一日犯され続けて
やっと解放された



すべて
母の差し金だった



母は清兵衛と
私の関係に
とくに否定的なわけでは
なかった

ただ金と引き換えに
娘の処女をくれという
貴族の男との取引に
応じただけ

母にとって私の処女は
その程度のことだったの

でもね…
売られたこと自体は
さほど気にならなかったわ

母が
そういう人物
だっていうことは
私にはわかっていた

ただ——
驚いていたの

犯されながら
望まない性交を強要され
処女を散らされながらも

快楽を得てしまった
自分自身に



母は淫売だ
それは仕方ない
諦めている

けれど
自分までもが
淫売だとは思
っていなかった

幼い頃から愛する人がいて
生涯をその男ひとりに
捧けろと誓っていたのに

蓋をあけてみれば
自分は犯されながら
「もっと」と
相手の精を乞うような

母とうりふたつの
女だった





いきこもって
誰にも会わずに
自らを責め続け

結局
自分は母と
同じ種類の人間——



そして認めた

最後には諦めた



情欲に溺れ
快楽をむさぼる血が
自分にも流れている

自分も淫売

私は
生まれ育った場所を
去ったわ

清兵衛とも
もう二度と会うことは
なかったし

会いたいとも
思わなかったわ

二人の生きる世界は
もともと別だったのよ

ただ幼い日々
偶然が重なって
近くにいたというだけ

毎晩違う男と
寝ることに
悦びと刺激を感じた

新たな快楽に
触れるため
何でもやった

年齢三十で
流行の病で
死ぬまで…

分かった？
ヒカリ

.....

快樂を得る道を
追求することだけが
私の生き甲斐なの

私が求めるのは
快樂そのもの……

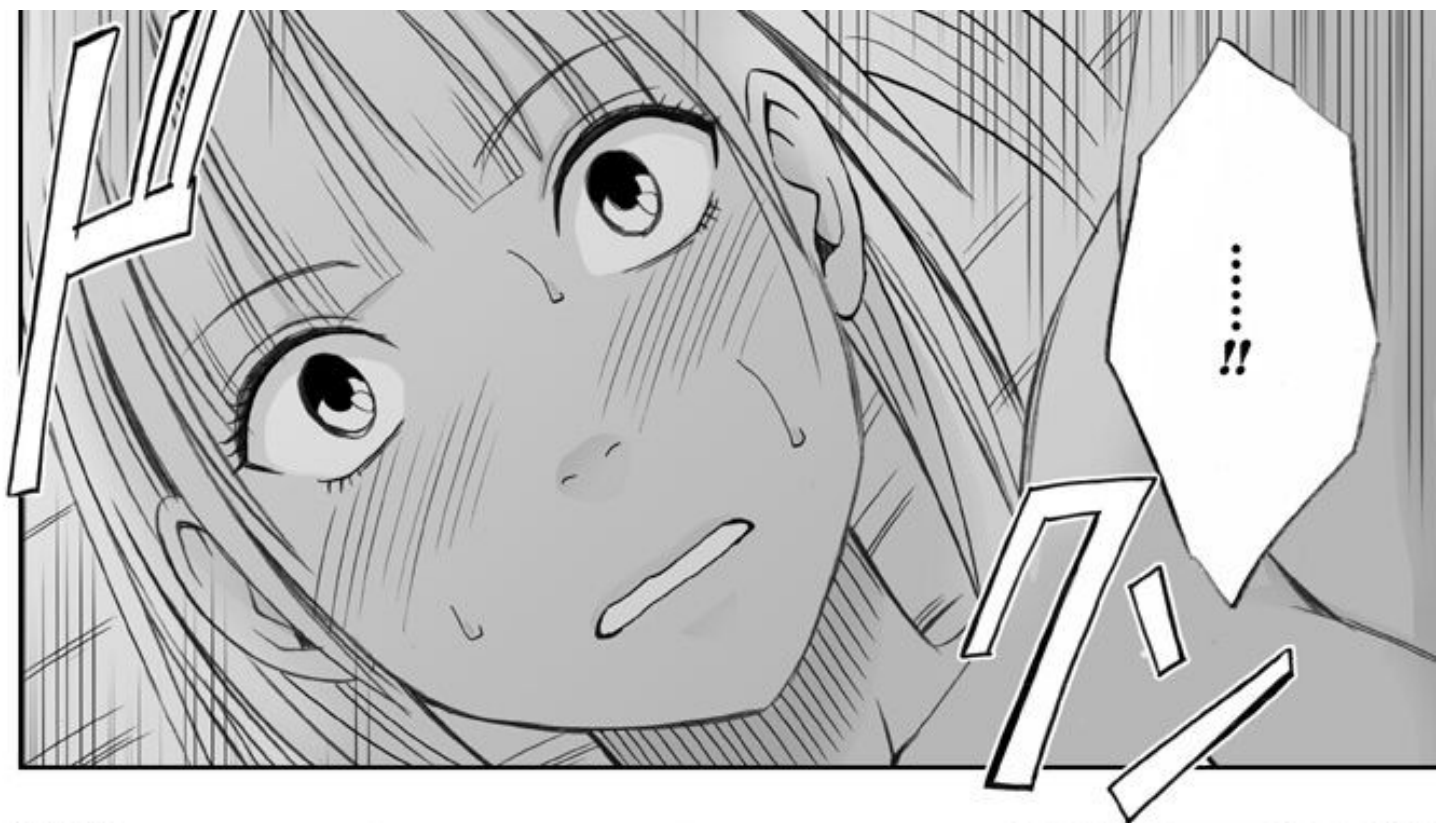
ただそれだけよ

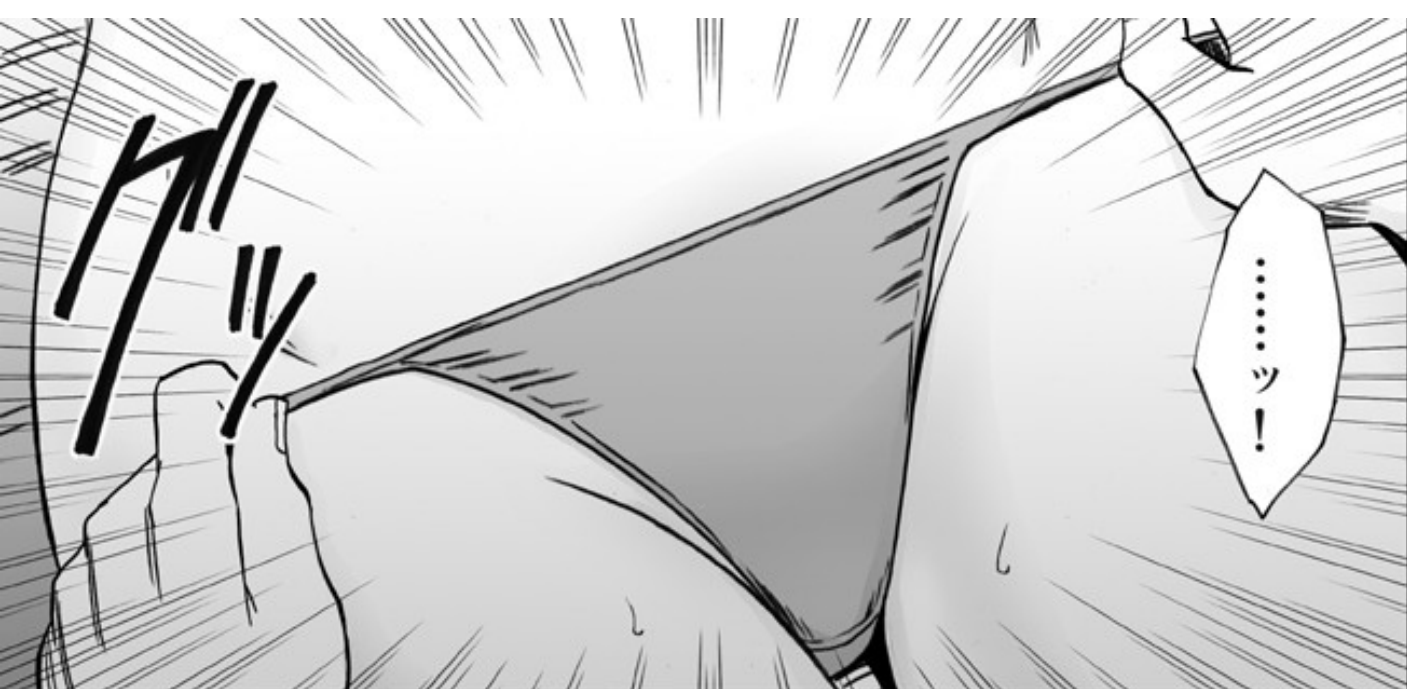
他にはもう

何もいらないの









……ッ！



いやっ！
待って！

ダメ……！

犯される……！

私も……！

やめてッ！



鈴蘭みたいに……！

いやあ
ああッ！









何で
助けに来て
くれたんですか？

何で師匠が
ここに…？

…って…
あれ？
そういえば



師匠が来て
くれてなかったら
ひびく

今頃…
私…
ひびく



ほんのわずかやけど
文章に
違和感があつてな

これは
いつものヒカリちゃんや
ない…って
心配になってな



確か
あのストーカーの人が
私のスマホで

師匠のところに
行くのを
延期する偽装メールを
出してたとかって…

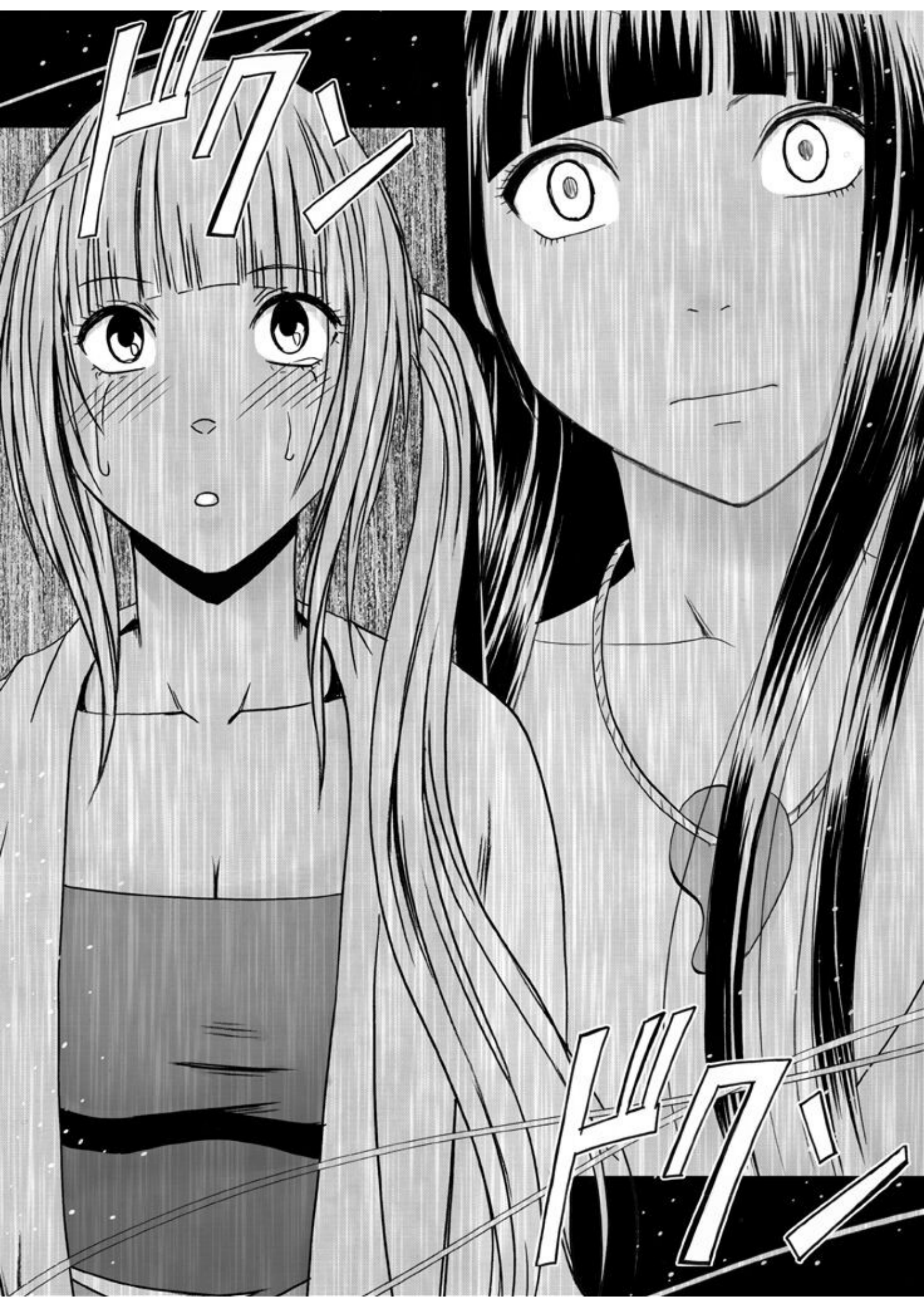


うん…
確かに

何かメールは
送られてきた
みたいやけど







その時の
私は

長時間の拘禁から
解放された
反動からだろうか

それとも

鈴蘭の心に
触れすぎて
気持ちが昂揚してた
からだろうか

昂揚して気持ちが
重なってしまったからなの
だろうか

理由は分からない
けども



ここで
言わなくちや
いけないと

師匠……！

私……

何かに
突き動かされる
かのように



私…

師匠のことが
好きです…!!



だから私…

師匠に
抱いて
もらいた
いです…!!

ボクも

ヒカリちゃんのこと
好きやで…

ただ
素直に

自分でも驚くほど
素直に

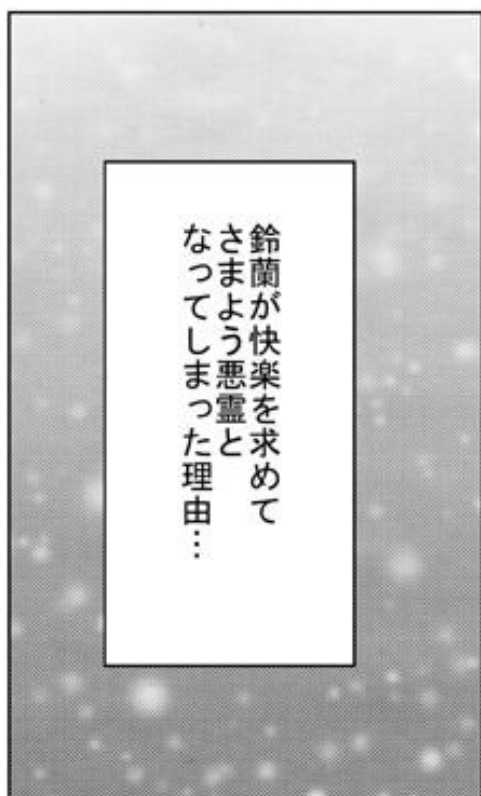
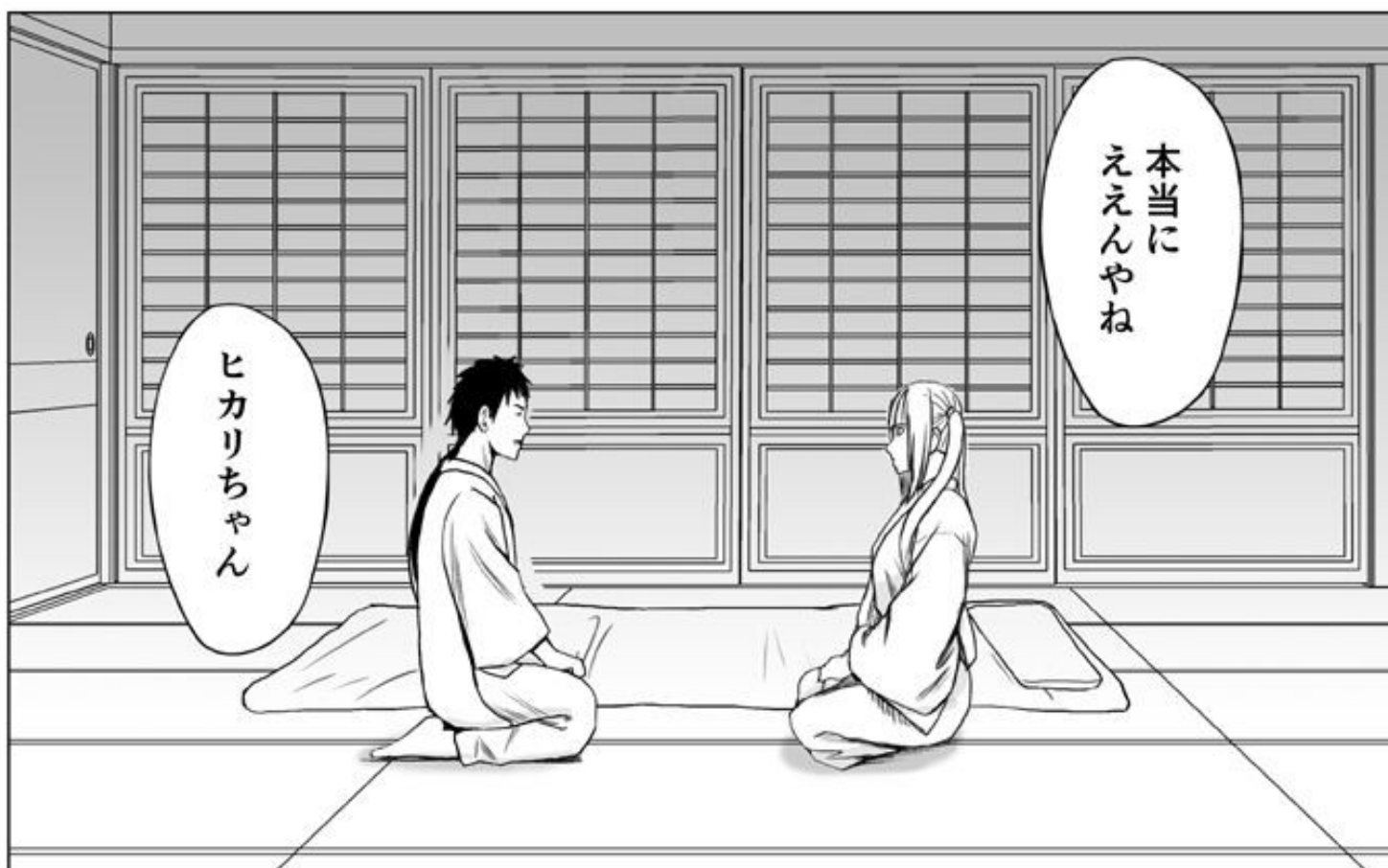
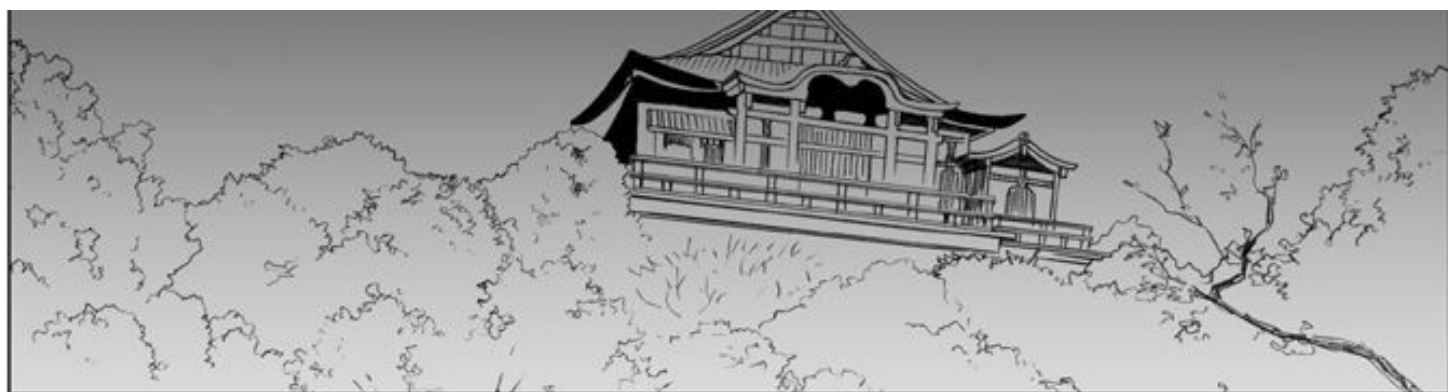
思いを告げた



敏感アイドルと
快感ゴースト

最終話
究極の快感







それはきっと

一番大好きな人と
交われなかった後悔が
あるから



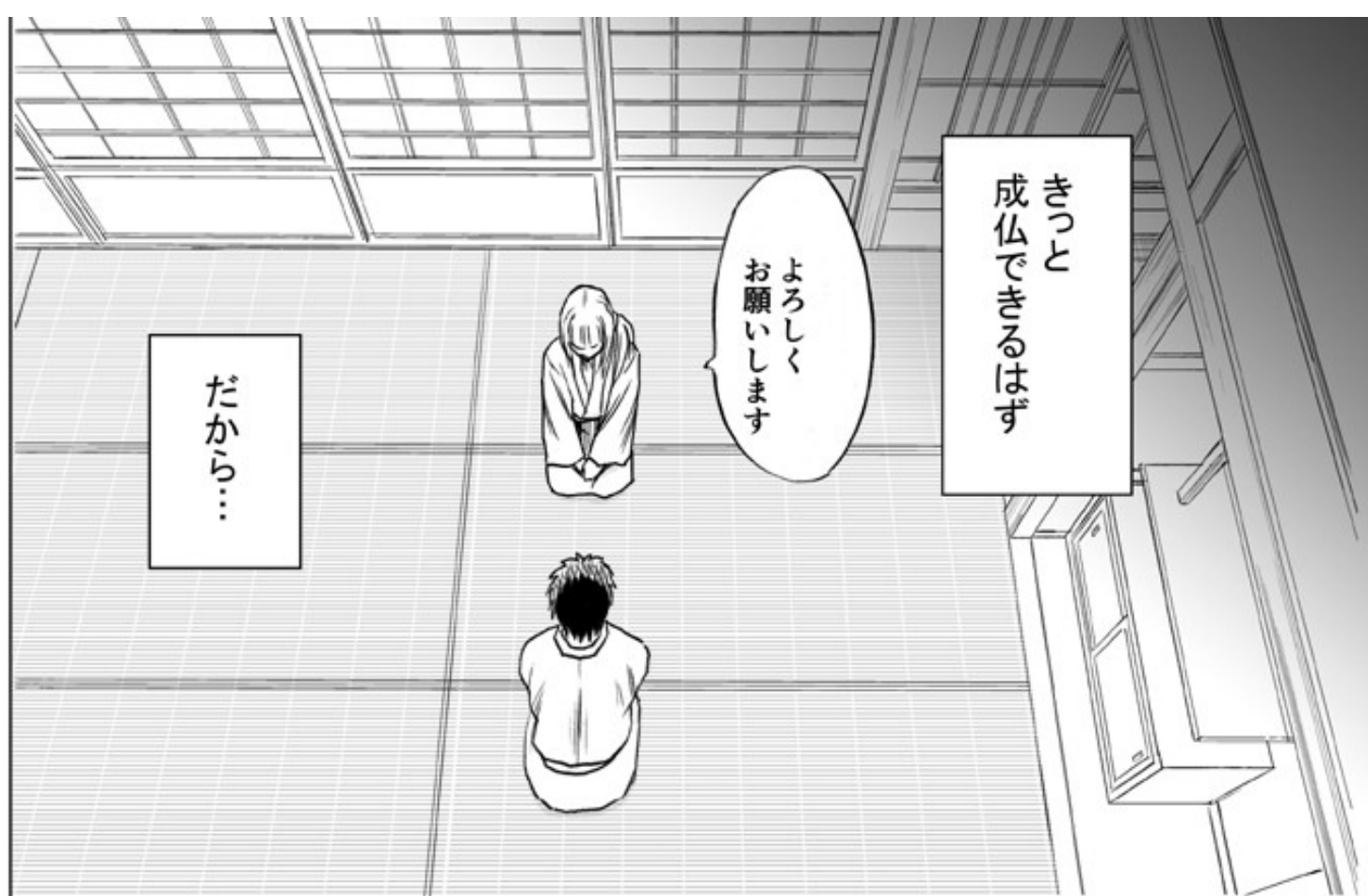
本当に愛する人
はじめてを捧げて

心の奥底から
喜べるような
行為ができれば



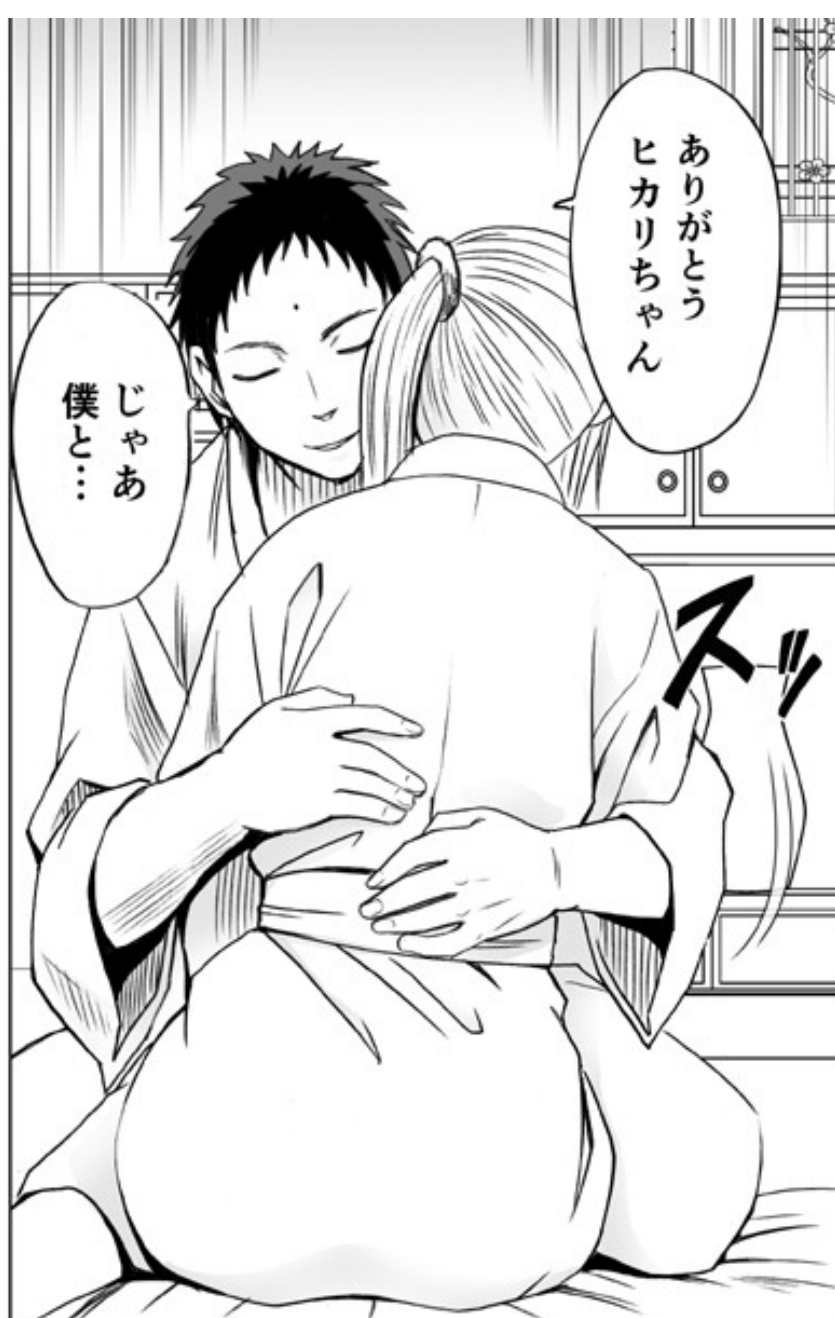
私はそう
思ってる

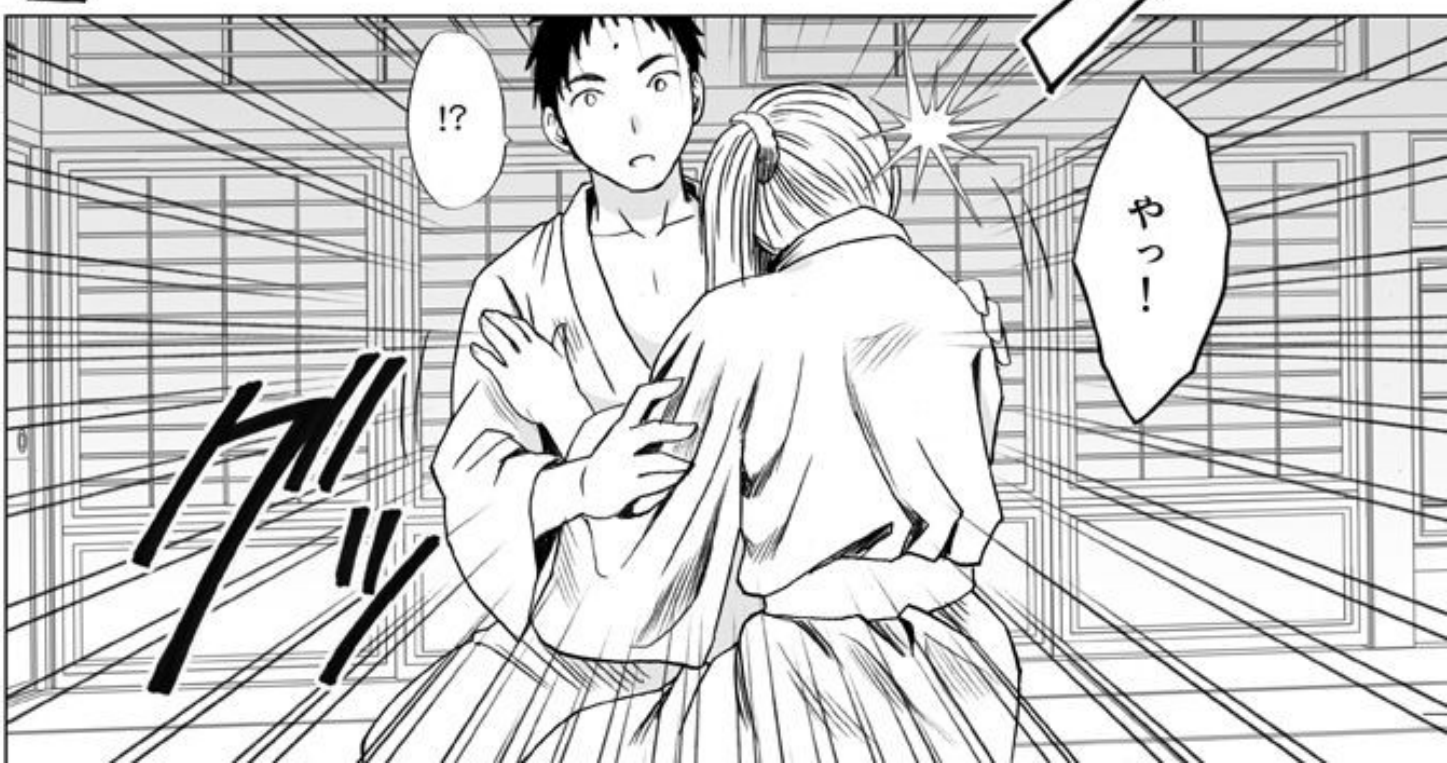
だから













僕が
今までのこと
忘れるくらい

気持ちよくして
あげるから





……ッ！

師匠…



あめ…

これが…

今まで受けてきた快感とは違う…

びくっ♡

びくっ♡

ん♡

ふわ

激しく鋭い刺激
だけじゃない

全身を
優しく包み込まれる
ような

幸福感…

…♡

びくっ♡

ん♡

びくっ♡



ああ…私…

グ
グ
グ
グ
グ

グ
グ
グ
グ
グ

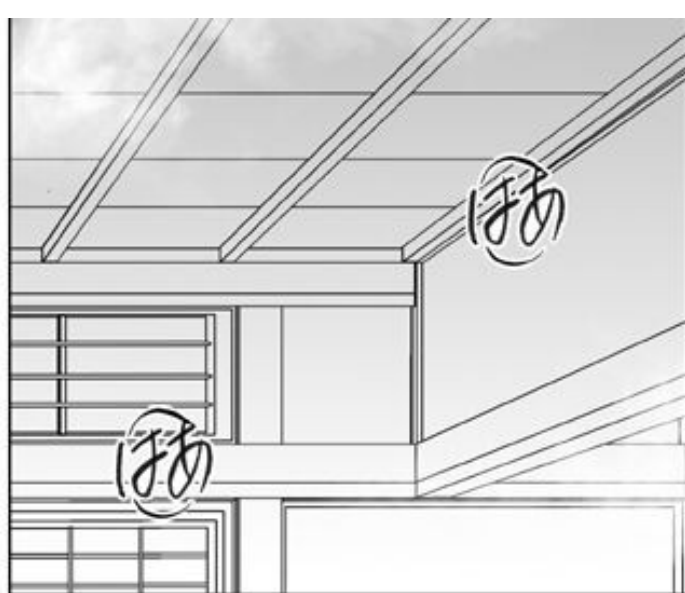
グ
グ
グ
グ
グ

グ
グ
グ
グ
グ

グ
グ
グ
グ
グ

ーりさささー







愛する人と

ひとつに
なれた



そのとき私が
感じていた快樂は

鈴蘭の影響に
よるものではなかった

鈴蘭の
どこか暗く罪悪感にまみれた
背徳的な快樂を押しつけて



幸福感と一体になった
快樂が押し寄せ

私自身の身体…
そして—

心の奥底から





悦びが



あふれてた

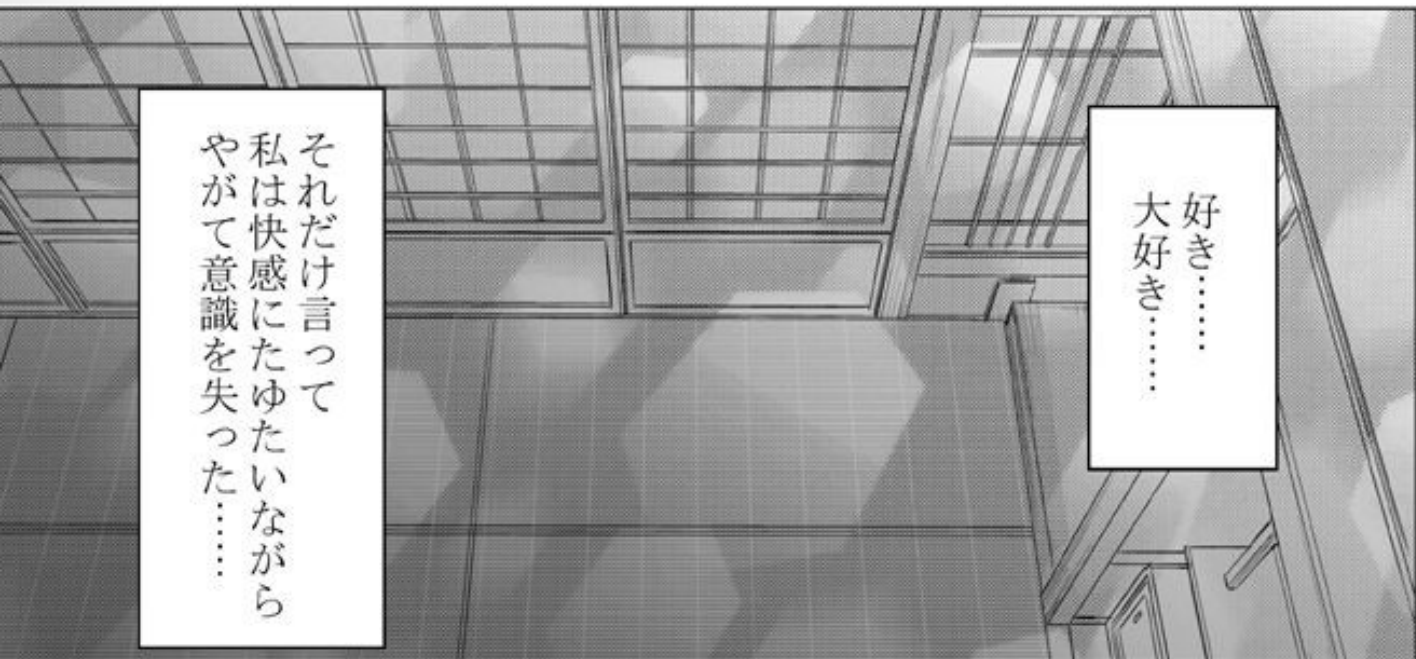






いつまでも
長く長く続く絶頂

私は愛しい人に
しがみつき
人生で最高の幸せを
味わっていた



好き……
大好き……

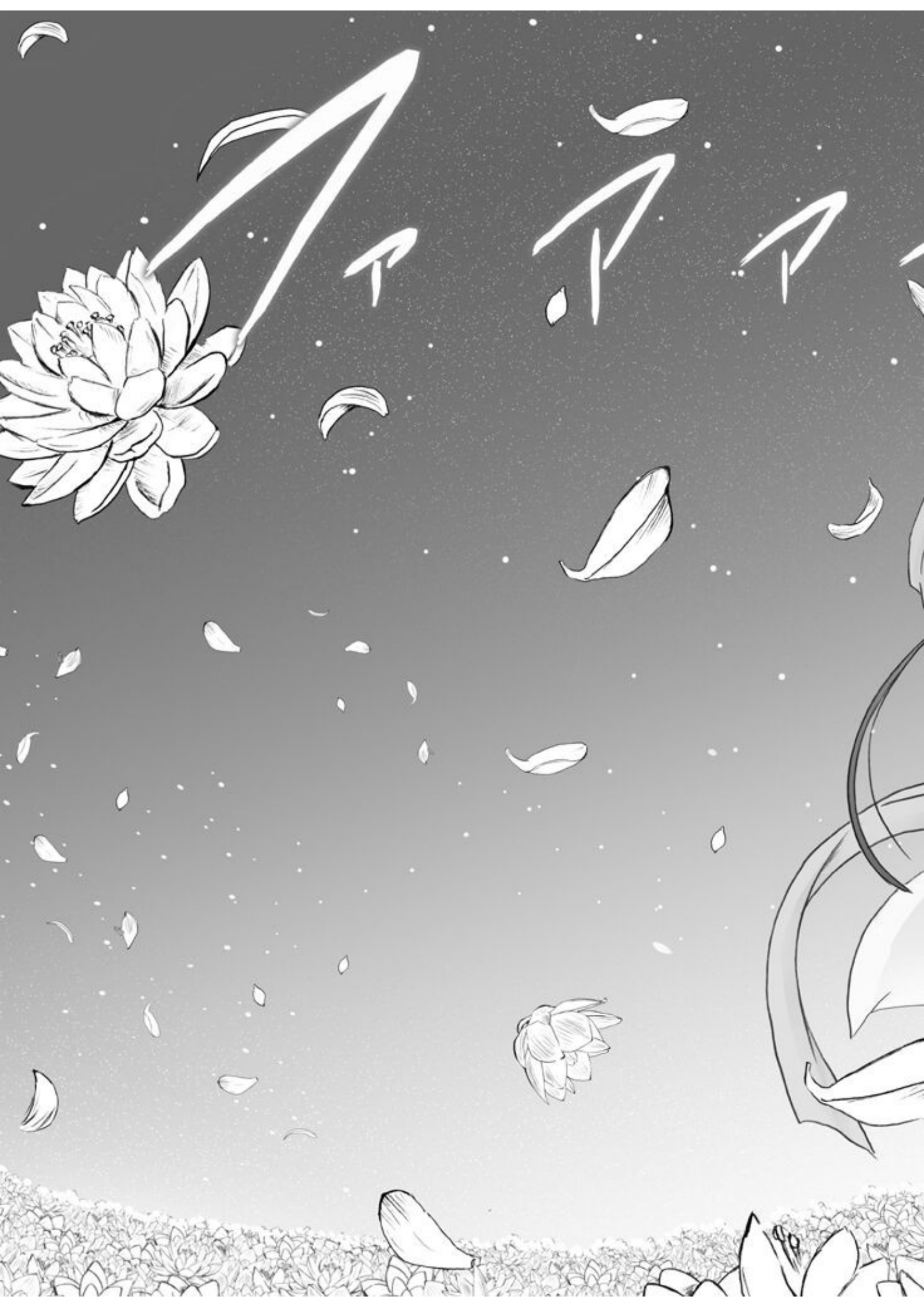
それだけ言って
私は快感にたゆたいながら
やがて意識を失った……



この感覚……
この快感……
届いたかな……

ねえ……
鈴蘭……





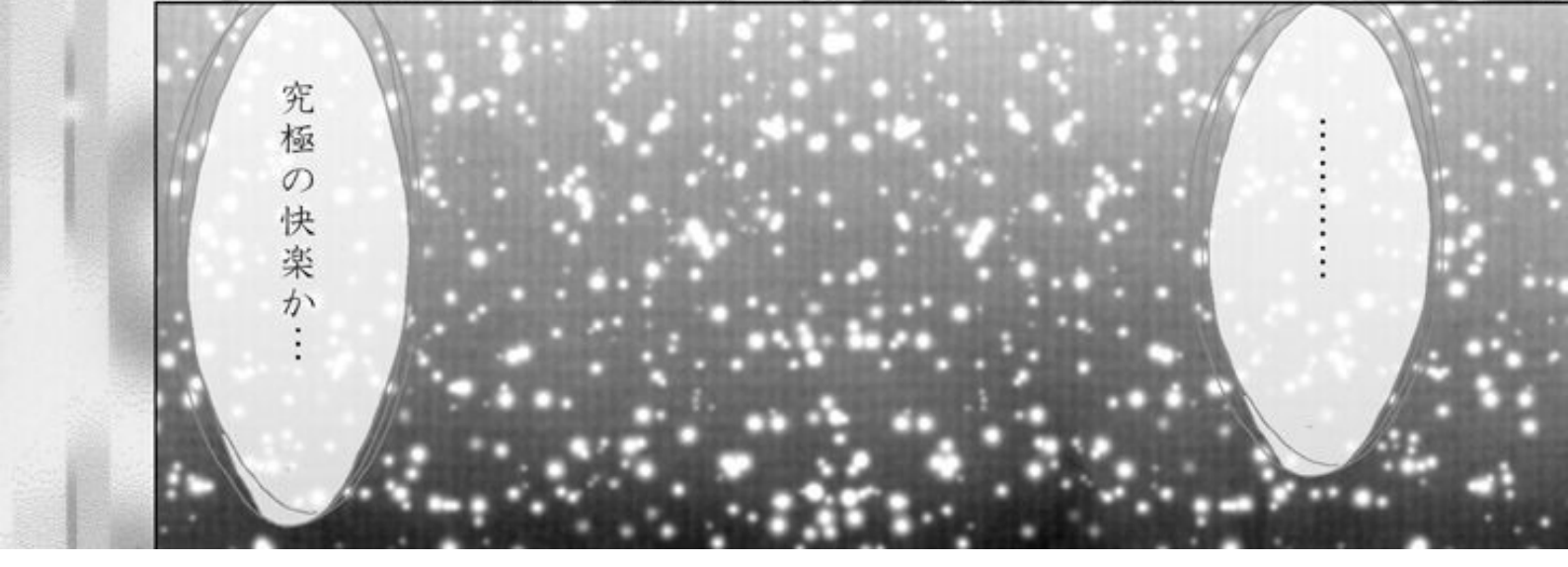






どうしてこんなに

あたたかいの
かしら……



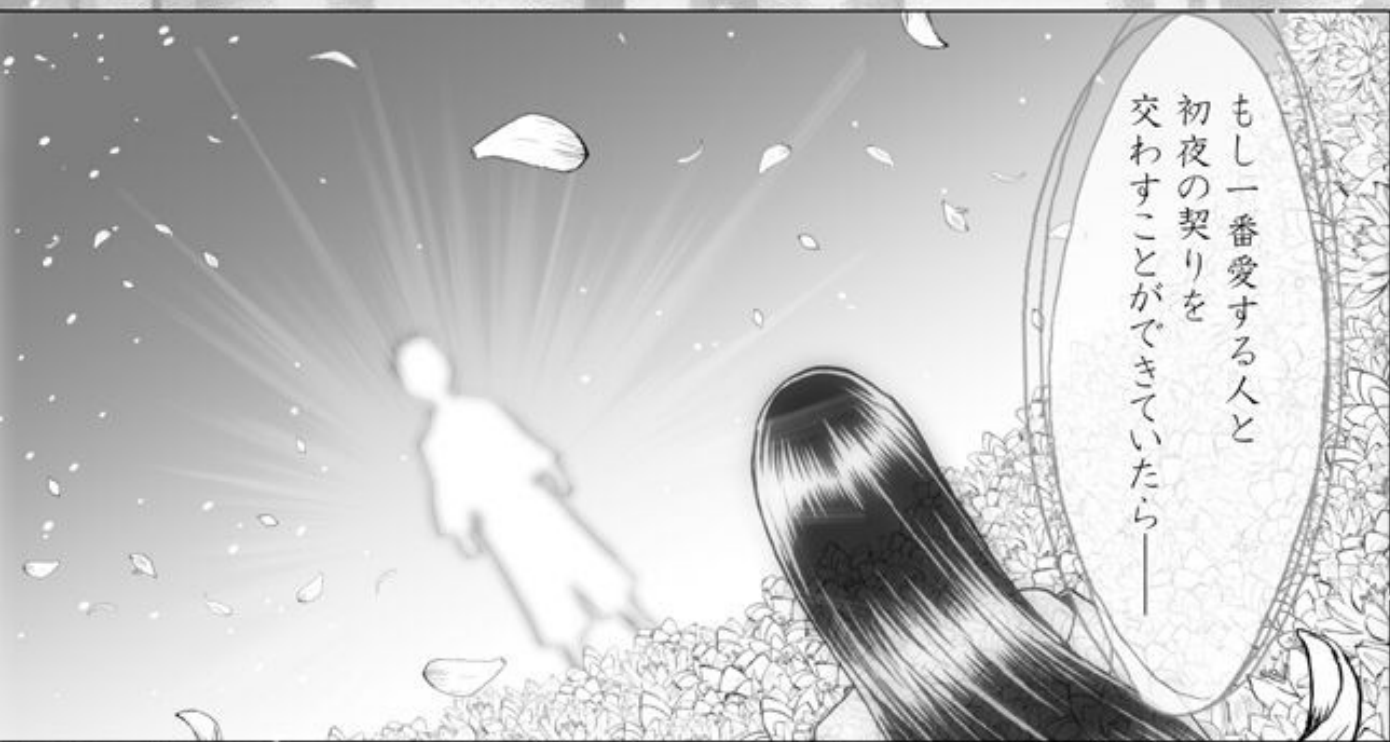
究極の快楽か…

……



ずっとやり直したかった

あの初めてを
奪われた日を



もし一番愛する人と
初夜の契りを
交わすことができていたら――



あの夜以来
全てを諦めたと思っていた――
でも私は

何ひとつ諦めることができずに
ここまで来てしまっただけ
だったのね





ありがとうヒカリ

あなたにめぐりあえて
本当に良かった





ANOTHERストーリー 後編

これはもし
さまざまなものに襲われたヒカリが
うまく逃げられずに
そのままやられてしまっていた場合を
描いた物語です。



もしライフセーバーの手から
逃げられなかったら…
Another Story



圧倒的な力で押さえつけられたヒカリは
どうすることも出来ずに
そのまま男たちに
挿入を許してしまった

同時に
鈴蘭がいなくなつてから
ヒカリの中でくすぶっていた
カラダの欲求が一気に
爆発してしまい

犯されているにもか
かわらず
自分でも信じられないほどの
激しい快感で
イキまくってしまった



一度 炎を
焚きつけられてしまったカラダは
もう抑えることができなくて

激しく痙攣を繰り返して
バカみたいにあえぎ声をあげて

結局
男たちに後ろの穴の
処女まで奪われてしまった

感情が爆発した
ストーカー男を止めることはもう
出来なかった

荒ぶる肉棒が
ヒカリの中に強引に
入ってきて…

ヒカリちゃん……！
ヒカリちゃん……！

これでもう
ヒカリちゃんは
ボクのモノですよ……！

ねえ！？
そうですよねえ！？

違うッ……！

私は……
あなたなんかの……！



まだ
そんなこと
言うんですか……!?

もう
ひとつになってるん
ですよ!?

ホラ

ヒカリちゃんだって
こんなに
気持ちよさそうじゃ
ないですか……!

ああ
たまらない
ボクのモノで
ヒカリちゃんが
イッてる……!

長時間の寸止めの反動で
ヒカリのカラダは
もう何をされても
イクような状態にされて
しまっていた



初めての
挿入

肉棒が
奥の一番キモチイイ部分を
突き動かすたびに

眠っていたカラダの
快感がすべて
呼び起こされる

鈴蘭の1000年分の
快感が…
すべて…

たとえそれが
望まないものであっても

カラダは拒絶できない

Eh

Eh



あーっ

ヒカリは苦悶の表情を
浮かべながら

人生最大の絶頂を
味わわされた…

即